

占いの真実を語る



女性は愛したい生き物

男性は愛されたいだけ



目次

■はじめに 8

JUMP

■完成された大人の男性とは？

四柱推命の十二運星の進化段階

12

JUMP

【胎】 13

【養】 14

【長生】 15

【沐浴】 15

【冠帯】 16

【建禄】 17

【帝旺】 18

【衰】 18

【病】 19

JUMP

		【絶】	21			
		【墓】	21			
		【死】	20			
						JUMP
■セックスでわかる男性の成熟度	22					
第一段階 動物的でウルトラ自己中心的な男性のセックス						22
第二段階 成長途中の男性のセックス	24					
第三段階 成長した男性のセックス	25					JUMP
第四段階 神と会話できる男性のセックス	27					
■生年月日の星座から男性の完成度を診断する	27					
おひつじ座 (3 / 21 ~ 4 / 20)	28					JUMP
おうし座 (4 / 21 ~ 5 / 21)	29					
ふたご座 (5 / 22 ~ 6 / 21)	31					

愛する。パワーを得るまでの人生44

ある女性経営者Aさんが

かに座	(6 / 2 2 / 7 / 2 2)	32
しし座	(7 / 2 3 / 8 / 2 2)	33
おとめ座	(8 / 2 3 / 9 / 2 3)	34
てんびん座	(9 / 2 4 / 1 0 / 2 3)	36
さそり座	(1 0 / 2 4 / 1 1 / 2 2)	37
いて座	(1 1 / 2 3 / 1 2 / 2 1)	38
やぎ座	(1 2 / 2 2 / 1 / 2 0)	39
みずがめ座	(1 / 2 1 / 2 / 1 8)	41
うお座	(2 / 1 9 / 3 / 2 0)	42

JUMP

JUMP

JUMP

Aさんの人生の概要

JUMP

愛人時代

46

孤独に襲われた時代

54

男性に対し主導権を握った自由奔放な時代

58

孤独・自由奔放の次にくるもの、私は愛する主体になる

83

女性は愛したい生き物

89

JUMP

男性は女性から愛されたいばかりに

一生懸命に仕事をする

91

■愛の主体は女性である

92

JUMP

■動物の世界でも愛の主体はメス

94

■女性が愛の主体になるべき

97

- 性の違いを学ぶ 99
- フィリピン人女性との結婚斡旋で学んだこと 102
- 夜の生活を拒否される男性が多い 103
- 愛したい欲求のない女性はもう死んでいます 105
- まぐあいの手法 107
- レイプをする男性の心理 113
- 西洋人の性は身勝手なキリスト教原理が背景にある 116
- いい男 いい女 121
- 江戸時代の性文化 124
- 愛人ができるプロセスには共通点がある 128
- 四柱推命でみる十干別対応の仕方 135
- 女性への警告 141

JUMP

JUMP

JUMP

■
著者
148

■
あとがき
143

JUMP

JUMP

フォーチュンソフトは占い専門店
30年の研究成果をソフトと書籍
にしています。

Web

■はじめに

実は、筆者（天野雲海）は何年か前に22年間の結婚生活を終了いたしました。四国から北海道への移住がその直接的な原因だったのですが、それまでの22年間を振り返ってみると、あることに気がつきました。前妻はとてども、穏やかに見えて男に従うことが得意なようにみえました。それをそのまま真に受けていたのが間違いでした。心理学の基礎に、**表面上に出てくるもの**と**正反対のものが同じくらいの大きさで潜在意識に隠されている**というものがあります。精神に変調を来たして何年か経過してその変調を観察してみると、本当の前妻は穏やかではなく、批判的であり懐疑的であり、男性に従うどころかだれにも従いたくない支配欲の強い性格が隠されていたのです。

今現在、婚活をしておりますが、一番注意している点はここです。うまいことと男性の機嫌をとることができる女性はその真反対の強烈な支配欲があるのです。むしろ、自分の意見や主張をがんがんとぶつけてくる女性のほうが、本当の優しさをもっていることが多いのです。

以前は東京に占いの拠点をもっていて、占いのセミナーを開催したり鑑定などもやっていました。占いの先生なんかをやっていると、女性から相談をされることがたびたびありました。そうすると、女性から誘われることもありました。しかし、よく観察していくと、そういう女性は、勝手に理想の男性像をつくりあげて、その理想像に恋しているに過ぎないことが分かってきました。そして、筆者がその女性の理想でない言葉を言ったり行動をすると、「先生がそんな人だとは思わなかった」と言います。私の理想である占いの先生なんだから、こうあるべきだという主張をしているのです。つまり、

筆者自身の思考を支配しようとしているのです。

どうも、そういうものを感じる本能が男性にはあるのではないかと思えます。男の子を育てた経験がある人なら、分かるでしょう。七才にもなると、母親の言うことなど聞きやしませんね。立派に自己主張してきます。何よりも、自分の自由意志というものを大切にしています。それは、成人した男性も同じです。

立派な人だと思われると、立派なことをしないとなりません。無理にそれをやっている人達が、変態になっていきます。芸能人や政治家達は不倫をするとテレビに滅茶苦茶にされますから、性欲を隠そうとします。そうすると変態的になっていくわけです。

女性達もテレビやメディアがつくる常識に洗脳されています。愛は男性から告白するもの。女性から誘うのは売春婦だけ。肉体関係をもつてしまったら

男性は女性に飽きてしまう。そんな洗脳がされているようです。女性の愛はそんなにちつぽけではないと思います。もっと、あたたかくて、器が大きくて、すべてを溶かしてしまう原爆以上のパワーがあると思っています。愛するパワーは女性の特権です。間違わないで欲しいのは、愛されるパワーではなくて、愛するパワーです。

そうは言っても、家庭の環境が良くなって愛するパワーを発揮できないで大人になってしまった女性も多いのです。そういう女性達には、完成された大人の男性が必要です。自分よりもふたまわり以上年上の人生経験が豊富で、器の大きい男性と交際し、肉体関係を持ち、男の弱さや子供じみたプライドなどを学んでいくにつれて、女性達は愛するパワーを発揮してきます。愛するパワーは、インド医学でいうところのハートのチャクラです。

ハートのチャクラが開くと、博愛精神にあふれますから、仕事はなにをやっ

てもうまくいきます。創造的な仕事もできるようになります。

本書ではそんな女性が本来もっている大きな愛のパワーを紹介していきます。そして女性が本来もっている大きなパワーを開花させる男性の条件も紹介していきます。

■完成された大人の男性とは？ 四柱推命の十二運星の進化段階

家庭環境のせいで愛するパワーを発揮できないで大人になってしまった女性には、完成された大人の男性が必要だと言いましたが、どんな男性が大人なのでしょう？一言でいうと、生まれ持った天賦の星を輝かせている男性です。四柱推命の十二運星がわかりやすいので、これで説明していきます。

十二運星を動物に置き換えたのが、動物占いですから、自分がどの動物なのかは知っている人も多いでしょう。知らない場合、無料のサイトもあるので、調べてみてください。

【胎（たい）】

動物占い：オオカミ 多芸多才、変転変化、迷いやすい、オリジナルが好き
進化段階

・未熟：束縛された環境やマニュアル労働には反発して、飛び出そうとするが飛び出せない。

・途中：思っていることをズバズバ言うが、その内容は人真似ではなく独自性があり自立している。

・完成：だれもやった事のない分野を独自の力で開拓していく、パイオニア精

神がある。

【養（よう）】

動物占い：コジカ ユーモアがあり、甘えん坊、人に好かれる
進化段階

- ・未熟：癖のない性格に見えるが、人に甘えることが多く面倒なことをやらな
いですまそうとする。
- ・途中：人間関係を穏やかにつくっていく人脈が豊富にできるが、八方美人的
になりやすい。
- ・完成：激しい環境の変化にも順応できる学習能力があり、周囲に安心を与え
る。

【長生（ちようせい）】

動物占い：サル 順応性が高く、お調子者で、頭の回転が早い
進化段階

・未熟：その場の雰囲気のにりやすく、あわててやってみて、あとで後悔することが多い。

・途中：合理的な判断をして、表面的にだけ帳尻をあわせることができる器用さがある。

・完成：知識を吸収する意欲が旺盛で、それを世の中に提供することに喜びを感じる。

【沐浴（もくよく）】

動物占い：チーター ロマンチストで芸術肌、愛らしく、移り気のつかめな

い性格

進化段階

- ・未熟：だらしない服装をしていて、落ち着きがなく、言うことが毎日変わる。
- ・途中：次々と新しいことに関心をもつてやるが、飽きつぱく長続きしない。
- ・完成：アイデアが豊富で、周囲が驚くような企画を立案するが、方針の転換も早い。

【冠帯（かんたい）】

動物占い：黒ヒョウ 華やかでカッコいい、独立心があり、カリスマ性がある

進化段階

- ・未熟：見栄っ張りでカッコをつけたいので、できないとは言いたくない。

・途中：身だしなみが良く、地味な仕事には関心を持たず派手な仕事に関心がいく。

・完成：スマートな態度で品がよく、無駄なく一流の仕事を進めていく。

【建禄（けんろく）】

動物占い：ライオン 観察力に優れ、用心深く完璧を目指す、発展の象徴
進化段階

・未熟：他人と協調して仕事を進めることができないほど、こだわりが強い。

・途中：やると言ったことは100%責任をもって遂行するが、やり方は自分流。

・完成：他人に甘えたりすることがなく、どこまでも自立して生きていくようにする。

【帝旺（ていおう）】

動物占い：トラ 自主独立、頑固で、統率力がありプライドが高い

進化段階

- ・未熟：頭の回転が鈍くぼんやりとしか物事を理解できず、仕事の正確さに欠ける。
- ・途中：何かに夢中になってしまうと、全てを忘れて熱中する純粹さがある。
- ・完成：長い目で世の中の変化をとらえ、周囲を正しい道に引っ張っていく技量がある。

【衰（すい）】

動物占い：タヌキ 保守的で、無駄な冒険をしない、慎重過ぎて消極的

進化段階

- ・未熟：大胆に物事を判断することができず、話していても面白みがない。
- ・途中：新しい考え方をすぐに採用する勇氣に欠けるが、淡々としていてミスをしない。
- ・完成：今までの経験を重視し、一步一步着実に物事を進めていき最後は大成する。

【病（びょう）】

動物占い：コアラ 夢見がち、直感が鋭いが、慎重すぎて実行力にかける
進化段階

- ・未熟：細かいことが沢山気になって、方針が一定せずに心配ばかりしている。
- ・途中：自分の考えを押し出すことが少なく、人当たりは良いが、直感的に人

を判断する。

・完成：備えあれば憂いなしで、将来に備えていつも今を生きること熱心である。

【死（し）または止】

動物占い：ゾウ 宗教的、嘘を見破る、新しいものに懐疑的、安定志向
進化段階

・未熟：頭で創意工夫をする必要がなく、あまり考えない仕事のほうが向いている。

・途中：真面目にコツコツとやっついていくが、環境の変化に合わせていく臨機応変さが無い。

・完成：新しいことへの着手は遅いが、コツコツと愚直に技を磨いていき、仕

事は丁寧。

【墓(ほ)】お墓という意味ではない。

動物占い：ヒツジ 探究心、研究心、無駄遣いが嫌い、人を集めたがる
進化段階

・未熟：お金を使うことが苦痛であり、自分のために投資ができず、伸び悩む。
・途中：流行や世の中の流れには惑わされずに、自分流の経済感覚で地道にやっけていく。

・完成：人に教えることが得意であり、目下をかわいがることで喜びを感じる。

【絶(ぜつ)】

動物占い：ペガサス 多忙、孤独、普通の生活は向かない

進化段階

- ・未熟：環境の変化や自分が尊敬する人に影響されやすく、迷いが絶えない。
- ・途中：面倒なことが嫌いなので、あきらめがよく、その分切り返しが早く、くよくよしない。
- ・完成：常に理想とロマンを追いかけていて、現実の利益には執着せず、正直である。

■セックスでわかる男性の成熟度

第一段階 動物的でウルトラ自己中心的な男性のセックス

女性をセックス・射精の道具として扱います。いきなり、ペニスを挿入して、運動して射精したと思えば、すぐに離れてシャワーを浴びます。セックスの間は、こするだけの運動です。会話もなにもありません。本当の意味で、女性とエネルギーの交換をしたくないという思いがあるため、このようなセックスになってしまいます。女性を分かうとする気持ちもありません。マスターベーションと同じです。結合している時間は、十五分以下です。セックスの回数は、一〜三日間に一度くらいです。セックスをしても、女性とエネルギーの交換ができないので、本当の意味で緊張が和らぐことはありません。ですから、気持ちが一瞬安定の状態がありません。女性がセックスを拒否しても、無理矢理挿入してきます。または、風俗に頻繁に通うことになります。女性が受け入れたくない状態で、無理矢理挿入するということは、女性に極度のストレスを与えるだけでなく、本人自身も大きな精神的なダメージを受けて

いることに気がつかないのです。こんな男性は、結婚する価値はありません。結婚しても、男女ともに不幸になるだけです。

第二段階 成長途中の男性のセックス

女性とエネルギーの交換をしたいと思っているため、結合している時間を極力長くしようとします。挿入してすぐに運動をスタートするのではなく、女性との一体感を楽しみます。射精することにこだわりませんが、射精したあとは、すぐに離れてシャワーを浴びます。結合している時間は、二十分～四十分です。セックスの回数は、五～七日間に一度くらいです。一度のセックスで、女性とエネルギーの交換がある程度できるので、しばらくの間、気持ちが無事の状態です。女性がセックスを拒否した場合は、無理に挿入する

ことはしません。ただ、射精の欲望が我慢できない場合は、正直に女性に告白し、射精だけを女性に手伝ってもらうことができます。こんな男性であれば、女性が教育をしていくなら結婚する価値があります。

第三段階 成長した男性のセックス

セックスの主導権を女性に渡しています。自分が射精したときにするのはありません。女性が心から開放されることだけを求めるので、自分の射精にはあまり関心がありません。女性とエネルギーの交換をしたいと思います。そのため、結合している時間を極力長くしようとしています。エネルギーの交換ができないセックスは精神にダメージを与えることを知っていますから、挿入してすぐに運動をスタートするのではなく、女性との一体感を楽しみます。

射精することにこだわりません。会話も楽しむことができます。射精したあとも、離れることなく、そのままの状態で三十分くらいは静止しています。または、結合したまま眠ってしまいます。固くなった男性のペニスが女性の中にあることが気持ち良い状態ではなく、柔らかく、大きくない状態のペニスでも十分に女性がリラックスできることを知っています。結合している時間は、一〜二時間くらいです。セックスの回数は、二〜三週間に一度くらいです。一度のセックスで、十分に女性とエネルギーの交換ができるので、二十日くらいは気持ち平穩の状態でいられます。

女性がセックスを拒否した場合は、無理に挿入することはしません。女性の状態を見て、自然と射精の欲望が消滅してしまいます。つまり、欲望をコントロールすることができます。こんな男性なら、結婚する価値があります。

第四段階 神と会話できる男性のセックス

結合することにこだわりません。会話だけで女性とエネルギーの交換ができてしまいます。決められたパートナーだけではなく、複数の女性と会話だけで魂の交流ができます。ここまで到達する男性は、人類の歴史上にいったい何人いたのでしょうか。筆者には無理な段階です。

■生年月日の星座から男性の完成度を診断する

生まれた年月日に太陽がどの星座にあるのかを調べることによって、個性

と恋愛の傾向が分かります。本当はホロスコープ表示ソフトを使用して、どの星座に星が固まっているのかを調べたほうが良いのですが、太陽の星座でも大きくは問題になりません。星座の個性が実際にはほとんど出ていない場合は何らかの精神的な欠陥があると疑ってください。また、個性の欠点を自覚していてそれを意識して矯正しようとしていれば、交際する価値のある男性です。

おひつじ座（3／21～4／20）

男性星座、活動、火、エネルギー、情熱的、攻撃的、パイオニアの孤独。独断的でリスクを覚悟でやってみようとしています。光あれの一言で混沌とした世界から形ある世界を創造する強さを持っています。力こそすべて。目標を

定めて突進する戦士。十二星座のトップランナー。我先にやることに生き甲斐を感じます。こういった強さを感じられない男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では、難しい獲物を追いかけるのが好きなので女性に誠実とはいえません。口説き落とすことに情熱を注ぎます。繊細で複雑な面をもつ女性には関心をもたず、性的な魅力と情熱的な女性に興味を示しません。身勝手で幼稚な愛し方をしているかぎりは本当に欲しいものは得られません。攻撃性を弱め過剰な欲望を捨て去ることが人格完成への道であり、そういうことを自覚している男性であれば、安心して交際できます。

おうし座（4／21～5／21）

女性星座、不動、地、慎重、温和、現実的、物質の保有、保守的、頑固。冒険を好まず現状維持をしたいという欲求が最優先します。人はパンがないと生きていけない。かつての居心地が良かった楽園を再現したいというタイプです。安定した生活の基盤をつくれない男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では相手の気持ちに確信がもてないうちは、自分から関係を前に進めようとはしません。その動機は自分を守るためです。相手への思いやりではありません。セックスアップールのある女性には弱く、セックスで安心感を得られると思っています。うまく相手と心が通じ合わないときに、自分の内面を深く見詰め相手の心を見つめることが人格完成への道です。そういう宗教的な考えが必要だと自覚している男性であれば、安心して交際できます。

ふたご座（5／22～6／21）

男性星座、変動、風、臨機応変、敏感、柔軟、流動的、何事にも反論。その場その場で思いついたことを言い、思いついたことは試してみたい欲求。自分のやっていることをもう1人の自分が冷静に見ているという思考が得意。人と人を結びつける触媒のような役割。こういった臨機応変な柔軟さがない男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では、感情ではなく思考でつきあおうとしますが、相手が感情的になると計算外となり混乱してしまいます。知的な相性の良さと会話の楽しさが得られる女性に恋をします。抵抗なく嘘をつき、真剣勝負をさけたがり変わり身が早い。それで相手を傷つけていることがわからない鈍感さがあります。

感情を合理的に整理するのではなくありのままに感じることで人格完成への道です。知性の殻を捨てる必要があると自覚している男性であれば、安心して交際できます。

かに座（6／22～7／22）

女性星座、活動、水、家庭的、忠実、順応、親切、孤独を嫌う、短気。人との親和性が強く自分を認めて欲しいという欲求。家族的な人と人のつながりがないと、仕事もやっていけない。自分の居心地が良い場所を見つけない。人との親和性がない男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では繊細で安定を求めるので慎重に相手を求めます。しかし、それは相手からノーと言われることが嫌なだけで、気軽に同調してくれる相手でないといけません。結婚は魂の結合を意味するものであり、自分自身を安心させるための環境を作るものではないということを理解すべきです。愛して欲しいために、相手を愛するのではないということを理解することが人格完成への道です。自分の寂しさを埋めるためだけに相手を利用することはいけないと自覚している男性であれば、安心して交際できます。

しし座（7 / 23 ~ 8 / 22）

男性星座、不動、火、快活、勇敢、支配的、熱狂的、独裁的、威圧的。全

身全霊でやりとげたいという欲求。

無邪気で子供のような誇りを見せつけたい。人から注目されたい。物事に
対し夢中になることができなような男性であれば、精神的な欠陥をかかえ
ていると疑ってください。

恋愛面では一緒にいてセクシーな女性に心を引かれ、自分が最上級の人間で
あることを演じます。自分が手に入れることが難しいものであればあるほど
熱心になります。しかし、欲しいものが手にはいると飽きてしまいます。自
己中心的な発想をしやすい傾向。他人の心のなかをのぞいてみるといった思
いやりが人格完成への道であり、それを自覚している男性であれば、安心し
て交際できます。

おとめ座 (8 / 23 ~ 9 / 23)

女性星座、変動、地、知的、丁寧、機敏、批判的、小心。少女のような感応性と鋭敏さがありますが、自己批判をしやすい。自分のなかの秩序、法律を守りたいという義務感が強い。匠の発想。自分で決めたルールさえ守れず、自分を甘やかすような男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面でも秩序と理性を優先し、見た目の美人には好意をもちません。会話が成り立つ知性的な女性を好みます。自己管理が強すぎて心を相手にあずけられずイライラしやすい。ルールや思考ではないハートの世界を感じることで人格完成への道であり、それを自覚している男性であれば、安心して交際できます。

てんびん座（9／24～10／23）

男性星座、活動、風、穏やか、協調的、寛大、楽観的、八方美人。現状を分析して安定させようとする。相手から見た自分を観察して、相手と自分のバランスをとろうとします。無機質だが本能からもっとも遠い位置にあります。人間関係を上手に調整できないような男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では美しい女性を好みすぐに恋心を抱き、突っ走ってしまいます。感情面での持続性がなく、移り気になり愛情のない関係を繰り返してしまう傾向があります。誰かが自分をなんとかしてくれるという気持ち捨て、自分

で自分の後始末をすることが人格完成への道であり、それを自覚している男性であれば、安心して交際できます。

さそり座 (10 / 24 ~ 11 / 22)

女性星座、不動、水、積極的、実践的、情緒的、感情的。繊細で慎重ですが執念深く追求し、過去の恨みは忘れません。かけがえない絆を求め、ために異常な集中力を見せます。人の深い心の機微に触れる洞察力があります。集中力がなく記憶力が悪い男性であれば、精神的な欠陥をかかえていと疑ってください。

恋愛面では、誰よりも深い愛を必要としています。うち解けて自分の内面をさらけ出すことができません。それゆえに、感情面で謎が多く、複雑で矛盾に満ちています。激しい恋をすると、歯止めがきかず、自分の心の一部を失うまで思いこみます。表面的で傷つかない恋ばかりを続けているとダメになります。積極的に心を開き、傷つくことも恐れず、タフさを持つことが人格完成への道であり、それを自覚している男性であれば、安心して交際できます。

いて座 (11 / 23 ~ 12 / 21)

男性星座、変動、火、寛容、正直、優雅、行動的、衝動的。挑戦的で最後

までリスクを犯して成し遂げます。

もっと面白くて有意義なことがあるはずという欲求。今、ここ、というよりも未来を見つめて矢を引きます。今の満足よりも未来の満足を求めます。目の前の今の欲望が中心になっている男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では、情緒的な関係を求めようとしなくて、面倒だけは避けたい気持ちが強くなります。自立して自分を束縛しようとしなくていい女性のほうが都合が良いと思っています。女性のために自分の自由を犠牲にするくらいに修行が人格完成への道であり、それを自覚している男性であれば、安心して交際できます。

やぎ座（12/22～1/20）

女性星座、活動、地、忠実、堅実、実務的、利己的。狡猾ですが自己を厳しくコントロールして責任感が強い。自分の社会に対するポジションを見つけて、1つ1つ積み上げていきます。組織に対する鋭敏な感性をもち、自分の立ち回れる場所を探す。責任感がなく、組織における自分の役目がない男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では、完全に相手に対する支配権を握らないと安心できません。男尊女卑的傾向があります。

危険で魅惑的な女性には、のめり込みたくてもそういう衝動的行為はできません。女性の気持ちを理解することが人格完成への道であり、それを自覚している男性であれば、安心して交際できます。

みずがめ座 (1 / 21 ~ 2 / 18)

男性星座、不動、風、個性的、友好的、人道的、進歩的、懐疑的。楽しみと多様性を求め達成欲はありません。インスピレーションが必要とされる仕事が好きです。権威に対して嫌悪感があります。甘美なエデンの園以外にも刺激的なものはあるのではないかという刺激的な知恵を好みます。常識的で古い考えに固執する男性であれば、精神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では合理的なことが感情であるべきだという信念があり、都合の悪い感情面は忘れます。才気にあふれ刺激的な会話ができる女性に心を奪われ

ますが、その本音は、知性的な女性であれば自分の自由を奪われないだろうという思考があります。自分のことを正直に見つめるのが不得意なので自分を説明する責任を負うことが人格完成への道です。自分を正當化する理論を言うべきではないと自覚している男性であれば、安心して交際できます。

うお座（2／19～3／20）

女性星座、変動、水、同情的、直感的、感覺的。非現実的ハートと感性の洪水。人との温かい関係が仕事のポイント。夢を見る権利を与えられた人です。理詰めが苦手です。自分にも人にも甘く、常にツメがあまい。合理的な浅知恵を嫌います。温かい人間関係よりも利益を重視するような男性であれば、精

神的な欠陥をかかえていると疑ってください。

恋愛面では誰にも予想できない感情・思考・夢をもっている魅力的な男性であり、それを武器にして女性を支配していきますが受け身の姿勢を示します。あらゆる可能性に思いを巡らせたいので、自分の可能性を引き出してくれる女性に惹かれます。現実から逃げるために、異性に走ることがありますが、異性に逃げないことが人格完成への道だと自覚している男性であれば、安心して交際できます。

ある女性経営者Aさんが
愛するパワーを得るまでの人生

Aさんの人生の概要

Aさんは幼い頃から家にいたくなく、たそなうです。友達の家で晩御飯を食べたり、寝泊りしていたことが多かつたそうです。原因は父親との関係です。中学校になると年齢をごまかしてアルバイトをはじめ、ほとんど親とは口をきかなかつたそうです。高校のときにはスナックで働いていました。そこで来ていたお客さんのなかに、企業経営者がいました。ふたまわり以上年上の男性ですが、その男性の愛人になることで人生を変えようと思つたのです。自分だけでは解決できない内面的なものを破壊して新しいものを見つけるには、そういうパワーのある男性の援助が必要だつたわけです。長い間の愛人生活で、すっかり男性という生き物を知り尽くしたAさんは、人を愛するというパワーがみなぎっていました。そして、愛人であることをやめて自分で起業

して今に至っています。今は、とても幸福そうです。余談になりますが過去に風俗で働いていた女性も男性の弱さを熟知している分、結婚すると良き妻になっている人も多いです。

愛人時代

私が二十三才の時、夜中の二時ごろから急に下腹部にひどい激痛が始まって、三十分後に彼の子供を流産した。二度目の妊娠だった。一度目の妊娠は、彼と付き合い始めてすぐだったが、彼は私に子供を産むことを決して許さなかった最初の妊娠の後、避妊のために、私は身体にリングを埋め込んだが、数カ月後にまた生理が止まり、そして流産した。「リングがだめだったから、ピルを飲もうと思います。」私は、病院の先生と相談して、ピルを飲むことにした。

この頃はまだ、ピルの副作用が問題視されている頃で、太ったり、肌が荒れたり、肝臓を傷めたりするなどの噂を気にして彼はあまり賛成しなかったが、ほかに方法が思いつかなかった。「そうか、もし今度こんなことになったら、そのときはオレがパイプカットするよ。」そう、彼は言った。

この流産のあと、私は二十三才からずっとピルを飲み続けるのだが、なぜかピルをちゃんと飲んでいたにもかかわらず、二十九才の秋にまた妊娠してしまったのだ。彼は初め、私がちゃんと薬を飲んでいなかったのだろうと疑った。こんな風に疑われるのは悲しかったが、彼の身になってみれば、そうも言いたくなるだろう、他に原因が思いつかないのだから。ただ私は、いつものおおりちゃんとピルを飲んでいたとしか言いようがなかった。子供をどうしても産みたいと思っていたなら別だが、そんなこと、思ってもいないのに、何でわざわざまた体を傷つけるようなことを、誰がするだろうか。泣こうがわ

めこうが、墮胎するしかなかった。私は、彼に病院代だけ請求して、十一月の寒い日にひとり子供を墮ろした。もう二十三才の若い頃とは違っていた。若い頃のように、何日も泣いて目を腫らすようなこともなかった。激しい感情の琴線は、もう長年のピルのせいなのか、こつてりとした粘土のようなもので覆われていて、悲しい音色すら響かせることを忘れていた。自分で病院を探し、職場のシフト調整をして、三日間の休みが取れるように段取りを組んだ。『思い切って産んでしまおうか、もしかしたら今なら一人で育てていけるかもしれない』、そんな思いも確かによぎったが、その思いに勢いはつかなかった。

この妊娠が分かった時、私のなかに、あの二十三歳の時の彼との約束が鮮明によみがえってきた。もしまた、このようなことになったとき、彼が本当にパイプカットをしてくれるのなら関係を続け、拒否するのなら終わりにす

る。私はあの時、こう決意していた。今後も彼と過ごすのか、それとも別々の人生を歩むのか、答えは二つに一つだと決めていた。妊娠と墮胎を繰り返すうちに、私の中に、「冷酷な女」という罪悪感が根を張っていった。愛する男の子供を身ごもったら、産みたいと思うのが当然だ、それが女の愛だ、母性だと、世間は決めつける。この頃の私は、愛人になりたいとは思っていたが、子供を欲しいとは思っていなかった。これが本心だった。しかし、常識や世間は罪深い女と決めつける。だが、本心では子供が欲しくないと思っているのに産んでしまう方が、よっぽど罪深いのではないだろうか、今なら堂々とこう言える。今なら、同じ境遇の女性に、「決して子供を墮した自分を責めたり、水子供養などする必要はない」と自信をもって言える。

墮胎後、体調がもどってから、彼にパイプカットのことを聞いてみた。彼

はパイプカットをうやむやにした。このとき、彼との最後の糸が完全に切れた。『今は忙しいので、病院に行っている暇はない』、あの約束から何とか逃げようとする彼の態度は、体が切り裂かれるように悲しかったが、これでよかった。彼のおかげで、私は自分を取り戻すことができた。今から思えば、彼がパイプカットをすることなんて、本当はどうでもよかった。ピルを飲んでいるにもかかわらず妊娠してしまった事実は、一つの大きな転換期が来ていることを私に教えてくれた。

人間は、進化したがる生き物だ。退化ほど居心地の悪い場所はない。退化はウソにまみれている。そしてウソは、魔法のようにうっとりするような言葉を投げかけてくる。それは甘く、あたかも心を癒してくれるような幻想を見させてはくれるが、実際は麻薬のように身体を蝕み、虚弱体質へと墮落さ

せる。そして弱さは、いとも簡単にウソや作り物の罠にはまる。幸いなことに、彼の口から「パイプカットして責任を取る」というウソの言葉を聞くことは一度もなかった。私にとってはこの経験は大きな天からの贈り物だった。

彼の愛人になって八年が経っていた。どんなにうまくいつているように見えるカップルでも、**相手に金銭面や精神面を依存している限り愛は成長しない。**また、愛の育たない関係は、どんなに頑張っても七年目には確実に崩れ出す。愛は、固い約束や誓いを交わしたり、結婚などの制度や、ある一定の形を作ってしまうと、それで永遠に続くなどということは、ありえない。逆に、そういった形式や制度のおかげで、愛を装っただけの作りもののカップルや、砂漠のように潤いのない家庭、もしくはウソに塗り固められた歪んだ家庭が多く存在するようになる。男女のカップルというのはお互いがそれぞれ自立、心を持ち、

自然に訪れる変化を受け入れて行かない限り、健やかな関係は築けない。生涯、変わらない愛情で・・・、などと言っていると、やがて必ず行き詰る。

二人の間に愛情が存在し続けるためには、**お互いの成長を助け合える関係**でなければならぬ。「昔のあなたは、こうだった」などと、過去の出来事ばかりに標準をあわせていると、相手の変化をそのまま受け入れ、成長を見守ることは難しい。相手に依存していく関係ではなく、個として自立していけるようになるのが、本来のパートナーのあり方だから、愛の証がもしあるとしたら、それは、「あなたなしでも生きていける」ようにならなければ、それを見つけてはできない。パートナーとのセックスがつまらないと感じている人は、間違いなく相手に何かを求めすぎている。単なる肉体の欲求を解消させるためだけにするセックスは、短時間で終わり、射精のたびに不満がたまる。「自

分勝手な男」、「つまらない女」、と心の底で、相手を責めて憎しみをつのらせる。

私はこの天の贈り物である変化を受け入れた。毎月何十万円もの手当てをもらい、贅沢三昧な私の愛人生活は、三十才を前にして幕を閉じた。きつかけは三度目の妊娠とパイプカットだったが、もうこれ以上一緒にいたら、愛の一切ない、単なる金銭による肉体の売り買いの關係に突入するしかなかった。そしてやがてお互いに、外に目を向け、更なる愛人をつくり始めることになる。愛人關係とは、金銭的な援助がある限り、そこには支配と服従という不自由という名の悪魔が入り込む。愛人に対する憧れは、このとき終わった。

※メモ

Aさんが、愛人を目指したのは高校生の頃です。なぜか？ 幼い頃に父親に

性的な虐待を受けた傷を、別のなにかで完全に埋める必要があったからです。自分を傷つけた父親からの完全なる自立。父親への思いを完全に断ち切るために愛人生活が必要だったわけです。この段階で、一段階進化したわけです。ただし、自立を目指すと必ず孤独の試練が襲ってきます。

孤独に襲われた時代

彼と別れて一ヶ月、性的な欲求不満がたまっている。私はもうすぐ三十才になろうとしていた。女の喜びを感じる一番肉体の熟れた年齢は、三十代だろう。特に三十代半ばから四十代に差し掛かるころに、女性の肉体は、男性ホルモンが強くなってくるようだ。この男性ホルモンが、女性の性欲を強くさせるといふ説がある。だから三十代後半から四十代前半の女性は、性に対してかなり積極的になるし、この時期にセックスをする相手がいないと、女性の精神状

態はとても不安定になる。職場では、「おつぼねさま」などと噂される年齢だが、部下や後輩に陰口をたたかれたり、嫌われるような態度をとってしまう人は、いいセックスをしていない。それでも、セックスする相手がいるだけでもいいほうだろう。欲求不満が原因だと気がついていない女性が多いが、体は正直にその持ち主である本人にヒステリーという形でイライラを訴える。とにかく、イライラして意地悪になってしまうのだ。心にも表情にも丸みがなくなつて、目が釣りあがり、言葉や態度にトゲが出てきて、自分でも気がつかないうちに、後輩いじめや、愚痴、不平不満、職場の悪口などを口走ってしまう。気がついたら、同じような不平不満を抱えた人と親しくなり、仕事帰りにお酒を飲んで憂さ晴らしをするが、決して相手のことを信用していない。逆に、「私は、この女よりはまだまだしだ」などと思っている。悪いのは自分ではなく、バカな他人であり、バカな職場であり、バカな上司であり、バカな制度やバ

力な社会で、すべてがなくなってないと、批判しだして、やがて孤立していく。

欲求不満な私を、多くの男が狙っていた。スキだらけだったのだ。つまり、「やらしてくれそうな女」として、私はみられていた。それまで、愛人として羽振りのいい生活をしていたので、その頃の私に声をかけてきたり、話が合う男性は、年配の落ち着いたタイプの人が多かったが、今の私は、埼玉でアパート暮らしをしている普通の会社員だ。こんな私を、落ちたとみる人もいた。特に、同じ部署の女性社員の中には、彼と別れてやつれた私に同情しながらも、「いい気味だ」といった冷たい目で私を見る人もいた。私はこのときに、これまで周囲の妬みを買っていたのかもしれないと初めて気がついたが、決して負け惜しみではなく、彼と別れて生活が不便になったことに対しては、まったく後悔をしていなかった。それよりも、すべての時間が自分の自由になる

ことのほうが、毎晩、銀座や赤坂で、高級割烹に行ってお酒の付き合いをするよりも、はるかに豊かなことのように感じられた。

贅沢な暮らしを味わうと、なかなかそのレベルを落とせないというが、そうではなかった。ただ時々、贅沢な生活が懐かしくなり、高級なお店に無理をしてでも出入りしたくなることもあったが、それも、半年で薄れていった。薄れていくとともに、こなくなることにはお金を使っていたのかと、接待と名のつくビジネスマン達の習慣や意味のない自尊心に哀れみを感じるようになった。銀座の高級クラブ通いをする男性は、哀れにしか思えない。愛人生活が終わった後の、身分相応の生活には不満はなかったが、淋しかった。どうしようもなく、一人でいるのが辛いと感じる日々が続いた。しかし、他の誰かではだめだった。誰も彼の代わりにはなりえなかった。何度も何度も、

よりを戻したいと心が叫んでいたが、私は自分の弱さを知っていたので、彼の連絡先やデータをすべて処分してしまった。

男性に対し主導権を握った自由奔放な時代

「じゃあ、五時に歌舞伎町のゲーセンでどう？」「ゲーセンって？」「なんだよ、ゲーセン知らないの？ゲームセンター。」「ああ、そう言うんですか。知らなかった。」まったく、何でもかんでも短縮してわけ分らない、と思いつながら、ゲームセンターの場所を聞いて電話を切った。ゲームセンターなんて、入ったことがなかった。ちょうどこの頃から「プリクラ」というインスタント写真が大流行し、ゲームセンターのプリクラの機械は行列ができていることもあったらしいが、私はまったく関心がなかったし、ゲーム機から発する

あの耳障りな機械の音が、たまらなく嫌いだった五時ぴったりに、約束のゲームセンターに着いて、中に入った。うるさくて耳栓が必要だ、と思いながら、Yの姿を探したら、奥のほうの機械の前でゲームをしているYの後姿を見つけた。「お待たせしました。」「どうも。場所、すぐわかったでしょ。これ、ちよつとやってからでいい?」「それ、花札ですか?」「そう、コイコイ」「あー、そんなゲームもあるのですか。私、子供のころ花札大好きだったんですよ。」「じゃあ、これやってみる?」「私はいいですうるさくてこういうところ好きじゃないから。イライラしてくるんですよ。」「そんなこと言わないで、やってごらんですよ。ずっと勝ち続けているから。」「じゃあ、なおさら、やりたくない。負けちゃったら悪いじゃないですか。」「私はだんだんイライラしてきました。」「いいから、はい、ここに座って。」「子供のころやったから、ルール忘れちゃってますよ。」「このボタンを押して、同じ絵柄の札を選べばいいから。」「あー、なつかしい。」

あのよろし”だつて。”青タン・赤タン”ですよ。私この桜の絵、豪華で好きだったんですよ。」やってみたら、案外おもしろかった。しかしやはりゲームセンターの中にいるのは我慢がならなかった。「花札は楽しいですけど、ここにるのがどうしてもいやです。まだやるのなら、私は今日は帰ります。」「わかった、わかった、もう出よう。」ようやく外に出られた。歌舞伎町の雑踏が静かに感じられた。やはりあの中は異常だ。「この間のお店、行ってみる？」「そうですね、あんきもが美味しかった。」そのお店は、ちよつと高級志向の居酒屋で、魚がおいしいお店だった。時間が早いので、私たちが一番のりのお客だった。二月の半ばは、まだまだ寒くて、熱燗がしみるようにおいしい。「この間は、ありがとう。ちよつと思ひ出すと恥ずかしいけど、俺、あれから起つようになつてきたんだよ。」「えー、そうですか、それは良かった！お祝いですね、今日は。」「うれしいねえ。こうやってまた久美ちゃんとお酒が飲めるなんて、神様って

本当にいるんだなって思うよ。」「まあ、私は別としても、男の人にとつては本当に神の存在を語りたくなるぐらい特別なことなのでしょうね。」「久美ちゃんにじらされちゃって、あれ思い出すとオレ、うれしくってさー。また起つて来ちいそうだよ。」「でも、裏ビデオなんか売ってるぐらいだから、あんな経験いろいろしているんじゃないですか?」「オレ硬派で通っていたから。」「そうなんだ、ああいった商売している人って、どっちかですよ。遊んでいるか、『超』がつくぐらいまじめか。Yさん、パンチ頭してるけど、まじめ派なんです。」「私は、十九才から二十二才までの三年間、水商売や風俗関係の仕事に就いて、ひどく乱れた生活を送っていた。

このとき、”百人切り”という言葉を知ったが、私は、体を重ねる男が十人を越え、二十人を越えたとき、この際だから”百人切り”目指そうか

と思ったことがある。そのぐらい、世に言う貞操観念というものが欠落していた。「親が悲しむ」とか、「親からもらった体を大切にしろ」なんて説教をする人はいつの世も、どこにでもいるが、親に対する罪悪感など一切なかった。職場では「やりマン」と影で噂されているのも知っていたが、どうぞ勝手に噂してくださいといった気持ちで、かなり開き直っていた。

その頃、まじめなお付き合いをした男性がいたが、半年ぐらいですぐに別れた。その男性は五才上だったが、三十才までには結婚すると宣言していた。子供は二人で上は女の子、下が男の子で、それを一姫二太郎というらしく、家族構成として理想の形だと言う。さらに、一人で暮らしている母親を引き取って、一緒に暮らせるだけの広さの家をいくつまでに建てて、と語るその男の未来に、私はまったく魅力を感じなかった。なぜこの男性と付き合い合うように

なったのかどうしても思い出せないのだが、とにかく覚えているのは、退屈
 なだけだったことだ。ちょうどその頃、「もしも、私が家を建てたなら・・・」
 という歌詞の歌が流行っていたが、その彼に、その歌を口ずさまれると、ぞぞっ
 とした。その男は、結婚するまでは肉体関係は持たないと決めていたらしく、
 一人暮らしをしている私の部屋に遊びに来て、ただ肩を抱いたりキスをする
 程度で、私の体を求めてこなかった。この彼に、愛したいという感情を感じ
 たことは一度もなかった。そんな彼よりも、私の体を純粹に求めてくるお店
 のお客のほうが、私は抱かれていて幸せだった。こんな乱れた生活を送って
 いる私を見かねて、学生時代の友人が「あんたってさ、本当に人を愛したこ
 とあるの？」と言ってきたことがある。「そういう、あんたは？」「私は、今
 の彼と結婚の約束もしているし、彼は私を一生守る、愛してるって言ってく
 れわよ。」「そう、それでいいじゃない、私に何か関係があるの？」この友人

は、友達として一生懸命私に意見をしてくれていたのだろう。男たちはみんな私を性欲処理嬢扱っている、もっと自分の体を大切にしろ、その退屈な未来を語る彼と一緒にになったほうが絶対に幸せになる、一緒に幸せになろうと、そんな内容の説教をしつこく私にしていた。「愛しているって言われるよりも、家を建ててもらうよりも、無理やり犯してくるぐらい情熱のある人のほうが私は好きなんだよ。」「そんなのおかしいよ。目を覚ましなよ。幸せになれないよ。」友人の一生懸命さはうれしかったが、住んでいる世界が違いすぎた。普通の生活をしろというありきたりの議論は、無意味だった。女性雑誌を開けば書いてあるような「結婚＝幸せ」に、私はまったく関心がなかった。「あんたの気持ちだけ、ありがたくね、受け取っておくよ。」愛ってなんだろう、愛しているって言葉に、それほどの価値があるのだろうか。家を建てることを目標になんか生きられない、私にはわからなかった。

そんな時、ある四十代前半の男性で、インポテンツの人とホテルに行くことになった。その男性は、お店で飲んでるときから無口で無愛想な人だったが、なぜか私には、ほかのホステスには見せない笑顔を見せてくれた。この日、お店は暇だったし、女の子が多かったので、いつもフルに出ている私は、店長にキリのいいところで早帰りしていいといわれていた。私は、じゃあ、今日はもう帰ろうと思い、「今日はもう上がりなんです、ゆっくりしていただくさいね」、とこの男性に言ったら、男性は、駅の向こう側で待っていると私にささやいて、「二〜三回水割りに口をつけただけで、お店を出て行った。」「どこで待っているから」、と言って帰っていくお客は結構いたが、ここは連れ込みパブではないのだから、律義に付き合う必要などまったくないし、あまり派手にやられるとお店の評判が落ちるので困ると、店長に言われていた。

しかし私は、この無口で、何が楽しくて飲みに来ているのか分からない男性に興味をもっていった。一応店長にばれないように、お店から離れた駅の反対側で待っているというので、帰り際に寄ってみたら、ロータリーにその男性の乗った車が停まっていた。私は車に近づき、助手席の窓をコンコンとたたいた。「お待たせしました。」「本当に来たね。」助手席に乗り込み、車のドアを閉めたとたんに、男性は車を走らせた。「どこかで飲みなおす？」とか、「おなかすいてない？」などと、気のきいたこと一つ言わないで、車はそのままラブホテルに向かっていった。私もベラベラしゃべるほうではないので、車の中ではほとんど会話がなかったが、この男性の場合は、無理に話す必要を感じなかった。三十分ほど車を走らせたところに、ホテルが一軒ぽつんとあり、そこに入った。ホテルに入つてすぐにこの男性は、お金をくれた。三万円だった。私は無駄な感情を差し込まず、ひと言「ありがとう」とお礼を言つてそ

れを受け取った。男性が先、私が次にシャワーを浴びて、ベッドにはいったが、この男性のペニスは勃起していなかった。勃起しない自分のペニスを一生懸命私のバギナに入れようと必死だった。私の足を真横に大きく開かせたり後ろ向きにさせて同じように足を開かせたりして、私の股関節がはずれそうになった。ペニスの先に唾液をつけて押し込もうとしたり、自分で一生懸命ペニスをしごいたり、色々頑張ったが、力なくうなだれているそのペニスは、私の中に入ることはとうとうできなかつた。お酒を飲んだせいでと、その男性はブツブツ言いわけをしていたが、私はその男性が哀れでならなかつた。私はこのとき初めて自分からフェラチオをしてあげようと思った。ラブホテルの休憩時間は二時間。ここに入ってからどのぐらい時間がたった分らないが、残りの時間、私はずっとこの男性の反応しないペニスをなめ続けてあげた。小さくて柔らかいそのペニスは、口の中でコロコロころがすことができ、なめ

ていて疲れなかった。パンパンに勃起したペニスをなめるのは、あごが外れるぐらい口を大きく開かないと無理だし、気持ちよくさせなければいけないという義務感のようなものも働いて、どこか仕事のような気持ちになつてしまうが、ふにゃふにゃのペニスは、口の中にすっぽりと入り、やわらかいキャンディーのようだった。しばらくしたら、男性の鼻をすする声が聞こえ始めた。私はペニスから口をはずし、男性の顔を見た。泣いていた。「どうしたの?」「ありがとう、もういいよ。」「・・・抱いてあげようか。」そう言つて、私はこの男性の顔の前に自分の乳房をもつていき、男性の頭を抱えて髪をゆつくりとなでてあげた。このとき、部屋の電話がけたたましく鳴った。「フロントからだな。もう、二時間たったんだ。」「電話、私が出ましようか。」「泊まりたい。一緒にいてほしい。いいか? 泊まりに変えられるか聞いてくれないか。」「こうして、このインポの男性は、私に抱かれながら、朝まで過ごした。特に何かを

話したわけではなく、起たない。ペニスを何とかしようという気持ちも無くなつて、裸になったお互いの肌を触れ合わせて、目を閉じていた。何も聞かなかつたし、何も話さなかった。ただ肌から伝わってくる男性の悲しみを感じながら、私はいつの間にか眠ってしまった。この男性とは、これっきりで、もう二度とお店に顔を出すことはなかったが、この男性の流した涙は私の中に一つの灯をともした。「愛」が見つつけられるかもしれないと。

今、目の前でお酒を飲んでいるYと話をしながら、私は、十年前にたった一夜だけをともにした一人の男性のことを思い出していた。こんなに明るく話していても、もしかしたらYの心も、あの時の男性のように何かに深く傷つきすすり泣いているのかもしれない。時計を見たら、もう九時をとつくにまわっていた。お店の開店と同時に入った私たちのまわりのお客は、ひと回

転して入れ替わっていた。「もう、おなかいっぱいになっちゃいましたよ。そろそろ出ませんか?」「うーん、まだいいんじゃないの、電車あるしさ、もう帰る? 淋しいな。」「じゃあ、次いきましよう。」「おつ、はじごする? いいね。カラオケか?」「ゲーセン、カラオケはかんべんして下さい。苦手なんですよ、うるさいところと、狭いところ。」「じゃあ、どこ行こうか、もつと飲む?」「そうしましよう、私ザルですから。」「いいね、たのもしいな。どこかいとこ知ってるの?」「ええ、ホテル行きますよう。」私は、腹を決めていた。もしかしたら、私の肉体が男性の身体を欲しがっていたのかもしれないが、私はこのとき、本当にこのYのインポを何とかしてあげたい、喜ばせてあげたいと思っていた。「え???」「この間の事務所は、落ち着かなかたから、ホテル行きますよう。」「えっ? お、女の人からそんなこと言ってくれちゃうの?」「そうです、イヤならはつきり断ってくださいね。私帰りますから。」「おれ、

びっくりしちやった。初めてだよ、女の人にそんなこと言ってもらったの。「色気ないですかねえ。」「いやー、助かるな、女の人からそう言ってもらえると。本当にいいの？一緒に行つてくれるの？」歌舞伎町を大久保方面に入つていくと、ラブホテル街がある。なぜかこのホテル街にバッキングセンターがあるのだが、いつもここでは、金属バットの金属音が響き、多くのサラリーマンや、学生風の人や、カップルなどにぎわっていた。私は、Yを緊張させないために気を使った。別にセックスをするのではなく、ホテルで飲みなおそうという雰囲気を作るために、深夜までやっている、今で言うコンビニのようなところで、お酒とおつまみを買っていくことにした。こういう気の回し方は、普通、男性がするものなのだろうが、私はYと、昔一夜だけでもにしたインポの男性とをだぶらせていた。この町は、どこに行つても人がごちゃごちゃしている。適当なホテルを選び中に入った。平日だったし、まだ終電まで時間があるの

で、比較的ホテルはすいていた。「ラブホテルなんて、何年ぶりだろう、化粧品なんかちゃんとしているんですね、最近は。」「オレも、本当に久しぶりだよ、なんだか、童貞になった気分。」「襲って欲しいですか?」「まいっちゃったなく、照れちゃうなく。まあ、とりあえずいっばいやろうよ。」「そういつて、Ｙはテレビをつけた。テレビの前に二人がけ用のソファがあり、その横にマツサージツきのリクライニングチェアが置いてあった。私たちはソファに二人で並んですわり、買ってきたワインのボトルをあけた。「じゃ、あらためて、かんぱーい。」「食べ物に限界があったが、お酒はいくらでも入った。このころの私は本当によく飲んでいた。飲まずにはいられなかったのかもしれない

が、家で一升瓶を買っても、三日と持たないほどだった。テレビではプロ野球ニュースをやっていた。Ｙは、この番組をいつも見ているらしい。「野球、お好きなんですね。」「特に好きじゃないんだけどね。」「といいながら、楽しそう

に興奮してみている。私はテレビを見る習慣がなかったし、プロ野球もお客さんの話題に合わせられればいい程度しか関心がなかったのも、ホテルのグラスとかコップに注いだ赤ワインを飲みながら、ソファアの背もたれに体を預けて天井を見つめた。部屋の壁や家具などはモダンで、今風のつもりだが、意外に天井は質素で、ほこりっぽい。照明を落としてしまえばわからないわけだから、ここまで予算をまわさなかったのかもしれない。それにしても、肉体関係をまだもたない顔見知りの男性とホテルに入ると、こんな時、男性の身体からは、どうやってベッドに誘おうか、いきなり胸を触っても嫌われないだろうか、シャワーを一緒に浴びた方がいいのだろうか、などこちらの様子を一生懸命うかがっている緊張感を感じるのだが、Yにはそれがなく、完全にリラックスしてテレビを見ている。Yのインポは本当に回復したのだろうか。何かの雑誌で読んだ事があるが、勃起不全で悩んだ経験がある

男性というのは、実は十人に三人〜四人もおり、四十代では四十%、七十代では七十%にものぼるといふ。まあ、年齢のせいもあるだろうし、インポテンツにも程度というのがあるのだろうが、女性の不感症と同じように、変な性情報が氾濫しているのがその一つの原因でもあるのだろう。いわゆる「イク」ことなんて、本当はどうでもいいのに。

最高のエクスタシーは、相手も自分も空間も時間も、何もかも一つになる瞬間だ。少なくともそう感じる瞬間がある。このとき、相手を愛しているなどという言葉は忘れる。ただ、『何もかも』になるのだ。パートナーとともにもつれあい、戯れることによつて、自分の体と感情がゆすぶられる。セックスと真剣に向き合うことは、自分自身と真剣に向き合うことにつながる。これは、自慰行為では絶対に得ることはできない。自慰行為は、ただ

ただ肉体の欲望を満たすだけだが、その先にはなにもない。つまり、何をす
るにも一人でできる自己満足には発展性はない。その点、パートナーのいる
セックスというのは、なかなか自分の思い通りにならない。例えば、さわつ
て欲しい場所が違っていたり、もつと続けていきたいのに終わってしまったら、
良かれと思ってした行いが相手には不快であったり、実はどちらかが毎回我
慢しているなど、相手は自分の思い通りに動いてくれず、責めたり、疑ったり、
独占したり、時には憎んだり、嫉妬に燃えたりと翻弄される。このもどかし
さこそが、実は自分自身との対話の姿なのだ。パートナーに対して抱く自分
の感情をよく観察してみると、心の揺らぎが起きている時は、必ずいいセッ
クスができていない。不満なセックスをしている間は、自分自身との付き
合いができていないのだ。

パートナーに物足りなさを感じるときは、自分自身がまさしく物足りない

人間だという証拠だし、相手に飽きてしまったと感じるときは、自分自身の向上心や成長が止まっているときだ。だから、社会生活に欠かせない人間関係を、豊かに構築することができない人は、セックスをしても楽しめない。セックスはただ肉体の快楽を求めただけのものではなく、もっともっと自分の中のもう一人の自分と息を合わせ、自分が自分であることに確信をもてる素晴らしい行為なのだ。

セックスというのは、必ずしも裸になって抱きあい挿入し射精する行為のみを言っているのではなく、パートナーと触れ合ったり一緒に散歩にでかけたり、心を通い合わせることも含まれる。しかし、自分に向き合い対話することから最も遠いところにセックスは位置している。技法ばかりに焦点が当てられる。そのほうが答えが分かるような気がするから人はそこに群がるのだ。

もつとよりよいセックスをしたい、快感を得たい、何とかしたいとみんな思っているのだろうが、人生に答えがないように、セックスにも答えなどないのだ。自分に聞くしかないのに、外に答えを求めようとするからハウツー本があとを絶たないし、どうでもいいような情報が重宝される。自分探しの旅などと言っている人にいいセックスをしている人は一人もない。楽しく満足のいくセックスをしていると、その人は満たされ幸福をまわりにまき散らす。

この人と一緒にいると楽しいとか、幸せな気分になるという人は、必ず素敵なパートナーが近くにいる。そして、よそに何かを求める必要がなくなつたとき、誰かに寄りかかるともなく、自己を認めながら、一人の自立した個人として生きていくことができる。しかし、自分のすべてを許して自然に生きていける人は少ない。育った家庭環境など大きく影響してくるのだが、恵

まれた家庭環境に生まれたい人が大半なのだから、大半の人は、生きていく上でそれを身につけていくしかない。その一つの手段として、パートナーの存在は大いに助けとなるのだが、パートナーは自分自身の鏡として登場してくるのでパートナーを傷つけなければ自分も傷つき、パートナーが喜べば自分もうれしくなる。これをくり返しながら、セックスが深まっていけば、日に日に豊かになっていく自分と出会えるが、傷つけあうことを恐れている、ここに到達することはできない。不感症やインポテンツの人を責めるつもりは毛頭ないが、自分自身と向き合うことの恐れが、何かの機能を停止させているのは確かだと思う。相手は自分なのだ。しかし、インポテンツを抱えた男性の内面はガラス細工のようにデリケートだ。

私はちよつと心配になり、Yが何も求めてこないのなら、このまま寝てし

まったほうがいいかも知れないと思ったりした。「私、ちよつとシャワー浴びてきますね」「ああ、そうする？湯船にお湯はろうか。」「そうですね、寒かったからお風呂につかりたいですね。」「Yは、「よし、わかった。」と言つて、浴室に行き浴槽にお湯をはつてくれた。「一緒に入ります？」「うん、入ろう、入ろう。」「なんだか、ドキドキしますね。」「またまた、そんなウブなたまじゃないでしょう。」「そうですね、じゃあ、プロ野球ニュースよりもつと面白いことしてあげますね。」「浴槽の蛇口から勢いよく流れる水の音と、テレビの雑音を聞きながら、私はソファアの上であぐらをかいて座っているYの手を取つてリクライニングチェアに座らせた。Yの股間の上にまたがるように座り、Yのチェックのタンガリーシャツのボタンをはずし始めた。Yはされるがままになっていた。私はこの日、Gパンではなく、ロングの比較的タイトなスカートをはいていたので、Yの上にまたがったことで、スカートが私の太ももま

で持ちあがり、ストッキングをはいた足があらわになっていた。ちょうどYのペニスの上に私のバギナの位置が来るように座りなおしたとき、Yの股間から勃起したペニスの硬さが少しだけ伝わってきた。ああ、よかった、ちゃんと起ってる。今日も、私が主導権を握ってあげよう。Yのシャツのボタンをすべてはずして、下着のTシャツの上からYの胸をそつと愛撫した。男の人のこの胸の筋肉というのは本当に魅力的だ。男性が女性のふくよかな胸にあたたかさや安心感を覚えるように、女性も男性の胸板のたくましさ、うっとりする。Tシャツの下で盛り上がる大胸筋の大きさや硬さを指先で確認しながら、意外に筋肉質なんだなと思った。「コックって、結構この筋肉発達するんですね。」「肉体労働だからね。中華なべふったりしているしね。」「いい感じにもりあがってますよ。私の服も脱がしてください。」Yが私の方に手をかけたとき、大きく生唾を飲み込む音がした。あまりにもその音が大きかつ

たので、また二人は笑ってしまった。「はずかしながら、よだれが・・・」そう言いながら、Yは私のアンサンブルになった桃色のカーディガンをやさしく脱がし、おそろいのタートルのセーターの上から私の身体をじっと見つめ、「さわっていい?」と切ない瞳できいてきた。私はYの手をとって、ブラの上に導いた。Yは何度も何度も深く呼吸し、私の胸の形を確かめるようになぞった。Yの手が私の腰のラインをなぞり、あらわになった太ももに下りてきた。つるつるすべるストッキングの上から遠慮がちに撫でてくる。この遠慮がちに服の上からさわれるのが、とても気持ちいいのだ。私は一度立ち上がって、コップに入ったワインを持ってきた。一口飲んで、Yにコップを渡した。さすがに、口移しをする気にはなれなかったし、お酒を口移しされても美味しくない。「おれ、浮気しているのかなあ」ワインを一口のんで、Yがつぶやきだした。「どういうこと?」「自分は、奥さん以外の女性とこんなことする人間じゃないと

思っていた。「罪悪感があるの?」「うーん、ないって言ったらウソになるかもしれないけど、オレは久美ちゃんと一緒にいたい。」「それならその気持ちに素直になるのが一番ですよ。奥さんに悪いなって思うのなら、その気持ちに素直になればいい。浮気なんて誰かが作った単語に振り回されないほうがいいし、奥さん一筋を通す自分でいたいのなら、そうすればいい、間違っても、俺は何てことをしたんだ・・・っていう、後悔や罪悪感を持つような方向へは行かないほうがいいですよ。」「そうだね、その通りだ。」「じゃあ、今日の私は勃起不全治療師です。これは治療です。」「素敵な子だ、ありがとう。」「そう言つて、Yは私をギュッと抱きしめた。やはり、あれこれ考えすぎる傾向がYにはあるのかもしれない。このとき、浴室から水が溢れ出す音が聞こえてきた。「お風呂、あふれてるね。」服を着たままの、もどかしい愛撫の時間は終わってしまった。服を脱いで裸になるまでの時間を、どれだけ甘美なものにでき

るかで、その日のセックスの燃焼度が違ってくる。特に二十代の若い女性はこの徐々に高まっていく時間が大好きで、挿入は二の次、三の次である。しかし、逆に二十代〜三十代前半の若い男性は、愛撫や戯れあうことなど二の次、三の次で、挿入して射精するのが第一なので、ここで同年代のカップルのすれ違いが生じ、「体だけが目的なのね」と、「やらせてくれない」に不満が分かれる。

孤独・自由奔放の次にくるもの、私は愛する主体になる

私は、このYをきっかけに、男性に対する私の態度が完全に変化した。愛において私が主導権を握っていたのだ。若い頃は、とにかく男性の求めるまま、言われるがままに行為に応じていた。ホテルに入り、まるで私は何も知りま

せんというようなウブなふりをして、相手の男性が私の服のボタンに手をかけるまで体を硬くさせて待っている。恥ずかしそうにしながら服を脱がしてもらうが、このときにその男性がどれだけ女性に慣れているかが、だいたい分かる実は男性のほうが、かなり緊張し、硬直しているので、体を愛撫されても力の加減ができていない。焦った指で、どこかのアダルトビデオで見たような順番通りに体を触られるが、気持ちよくもなんともない。だが、私も、どこかで聞いたようなよがり声を発して演技する。若い頃の頃のセックスは、相手に合わせ、柔順なふりをするのが一番男性が喜ぶのだと思っていた。だから、エクスタシーやオーガズムとは無縁だったし、それを求めようとも思わなかった。ただただ、『私でいいのなら、どうぞお使いください、この体を』という思いだけだった。人生に目標なんてなかったし、かなり投げやりなところがあつたが、こんな自分でも喜んでもらえることがうれしかった

た。唯一、「生きていてもいいんだ」と思える時間でもあったのかもしれない。

しかし、三十代の私は、快楽の追求に走った。エクスタシーを得ることに執着したのだ。だから、私の肉体をエクスタシーの高みに連れて行ってくれそうな人を探し、性の遊戯にのめりこんだ。だが、私は幸福ではなかった。たとえ愛液が太ももの内側を伝って流れ出るほど全身快感づくめになったとしても、私の尿道に口をつけて小水を飲ませてくれと哀願されたとしても、どれほどセックスで快楽を得たところで、私は、幸福に満ちあふれることはなかった。何かが違うと、いつも魂が叫んでいた。

私は今、一つの結論に達している。これはあくまでも、今の段階での結論だが、多くの男性とセックスを経験してきて、一つだけ強く感じることは、

女性は、複数の男性とセックスしている限り心が豊かに満たされることは決してないということだ。エクスタシーを求めるセックスは確かに刺激に満ちていて魅力的だ。しかし、幸福ではない。幸福な人は、セックスに刺激など求めはしない。セックスに何も求めないのだ。相手に何も望まないのだ。ただ、それを受け入れることの喜びがあるだけだ。結ばれることの喜びがあるだけだ。これは、一人の男性と溶け合わないと到達することができない領域だ。複数の異性とは、深く完全にその中に入っていくことはできない。

三十代の頃の私と同じようなことをしている女性と話すと、フリーなセックスを楽しんでいるかのように話す。かつての私もそうだった。しかし私にはその人が幸福そうには見えない。温かみがないのだ。確かに自分に正直で前向きでエネルギーギッシュではあったとしても、その人と一緒にいても安らぎ

がないのだ。幸福な人はそこにいるだけで安らいでいる。

付き合う異性の欠陥というのは、とてつもなく不快なものだ。一人の人と深く付き合うと、必ず相手のとてつもなく不快な欠陥と出会う。それは、目を覆いたくなるほど醜く、息も出来ないほど顔をしかめ、ずたずたに切り刻みたくなるほど憎しみでいっぱいになる。多くは、この忌まわしい相手の欠陥にふたをして逃げる。もつと愉快なものを他に探し始める。他の異性をネット上で検索する。相手を変える。やがて別れる。この憎くなった相手の欠陥に立ち向かい、それを解決しようとする、相手をひどく傷つけることになる。このとき自分も深く傷つく。お互いの心が傷つき、痛みえぐれ、心が血を流す。あまりにもこのえぐれが痛いので、それ以上付き合うことを拒絶するようになる。しかしそのそのえぐれたところをよく見て欲しい。内側に血を流

しながらもその先に進むことができれば、これまで強く自分が忌み嫌っていたものが、実は「自分自身の内側」にあったのだということに気づくだろう。自分が本当に求めて破壊したかったものは、相手の中ではなく自分の中にあつたのだ。それをエゴという人もいる。己の中の最も許せない部分のことだ。

パートナーはそれを教えてくれる。パートナーを愛しながら憎むことで、その先に進むことができる。セックスはその先に進むための一つの通り道だ。自分の中の最も嫌っている部分を破壊し捨て去ることは、非常に難しい。たとえそれを見つけることができ、さらに捕らえることができたとしても、それを完全に追い出すのは、不可能に近いかもしれない。だが、セックスによって、ある瞬間、それは見事に消えてなくなることもある。それはほんの一瞬だが、何もかもすべてと自分の魂とつながっているという瞬間がある。どん

なに目を凝らしても、耳を済ませて、自分がどこにいるかがわからないのだ。どこからどこまでが相手で、どこからどこまでが自分なのか分からないのだ。この瞬間、エゴはエゴではなくなる。許すことも許さないこともなくなる。男も女もなくなる。善いも悪いもなくなる。愛も憎しみもなくなる。そのちょうど中心の、まったく重力のかからない場所に一瞬だけ溶け込むことができなのだ。私は今、『何かが違う』といった感覚からは解放されている。愛するから憎しみが生まれる。悪があるから善がある陰があるから陽がある。この陰陽両極の中心であり、全体である『何もかも』の瞬間を、どれだけ長く保てるかが、今の私の楽しみであり挑戦でもある。

女性は愛したい生き物

愛は男性から告白するもの。男性は強いもの。女性は弱いもの。女性から誘うのは売春婦だけ。肉体関係をもってしまつたら男性は女性に飽きてしまう。そんな思い込みが少しでも変化して、女性の男性を愛するパワーは、もっとあたたかくて、もっと器が大きくて、すべてを溶かしてしまう原爆以上のパワーがあるという感覚を感じていただけたら幸いです。

男性は女性から愛されたいばかりに
一生懸命に仕事をする

■愛の主体は女性である

男女の「まぐあい」において、もう充分に体験し学習しているはずの50歳をすぎた女性と「まぐあい」についてヒアリングしてみると、まったく「まぐあい」の核心部分を体験せずに、こんなものだと思いついている女性がほとんどであることに驚いています。とくに若い頃は綺麗だったろうなと思われる女性ほど、男性から無理矢理肉体を要求された体験があり、とくに無理矢理犯されて、命の危険まで感じたことのある女性は、男なんてこんな動物だと確信してしまっている人が多いのです。

そういう確信のまま、女性という生き方をしていくと、必ず不満足な人生になってしまいます。それが、筆者には残念でなりません。

男性はいつでも女性とまぐあいをしたがり、常に発情している生き物であ

ることは否定しません。だからと言って、男性が性と愛において主導権を握れることはないのです。**主導権を握れるのは女性**なのです。男性は、女性から愛してもらうために、一生懸命に仕事をしてお金をもうけ、社会で戦わなければなりません。おしゃれをするのも、男性のほうの本当は必要なのです。女性のほうは、男性に依存するのではなく、男性を育成しなければならぬのです。

わかりやすく言うと、女性は、愛したい生き物です。愛の行動は、女性が主体的で能動的であるべきなのです。世の中の「彼から自分はどう思われているか？」という女性週刊誌によくある悩みは、悩みそのものが、間違っていて女性の特権を放棄した屈折したネガティブな波動をもった感情なのです。占いコンテンツの世界も同じで、ほとんどが狂っていて男性が愛の主体であるかのような前提になっているものばかりです。この社会全体を支配してい

る勘違いを転換しなければ男性も女性も不幸になります。

■動物の世界でも愛の主体はメス

筆者は馬を育成する牧場を経営しておりますが、馬も1年中オスは発情しています。メスを見るとブヒブヒ鳴くのですが、メスがいつこうにその気配がないと、オス馬はブヒブヒ鳴くだけでペニスを大きくさせながらも交尾しようとはしません。メスは1年に春と秋の3〜4回くらいしか発情しません。その発情もクライマックスの発情の時だけに、オスを受け入れます。もし明日がクライマックスというタイミングで、今日、オスがメスに乗っかろうとすると、どうなるか？メスから強烈な回し蹴りをされてしまい、オス是最悪の場合内臓破裂で死亡します。明日がクライマックスかどうかは、オスには

わかりません。

メスはオスが近づくと、腰をふったり、尻尾をあげて、子宮が大きく開いたり、そこから液体が流れ出たりしているの、馬を育成する人間としては、そろそろ大丈夫だろうという予想として、オスとメスを会わせるのですが、本当のクライマックスでなかった場合は、オスに回し蹴りをくらわせるのです。オスは、ペニスを大きくして、精子をまきちらしながらも、乗ることをあきらめ、退散するしかありません。オスは命がけで内臓破裂や骨折覚悟でメスに乗るわけです。メスから拒絶されてしまうと、オスはトラウマになってしまい、生涯、メスに乗ることをあきらめてしまうオス馬も多いのです。

優秀な種馬だけは、例外です。牧場の経営者がそろそろ、発情しているなど思ったなら、腕のいい獣医を呼ぶのです。そして、クライマックスのタイミンをどんぴしゃ予想して、メスを種馬のもとに連れてくるわけです。そうす

ると、機は熟していますから、子宮の入り口を開いて、腰を低くしてオスを待っています。すぐにオスは乗つかれることができるわけです。優秀な種馬は、1日、数回そうやって種をつけるわけです。だから、メスから拒絶されることがないのでますます、自信をつけていきます。人間の男性も同じで女性から受け入れられると自信がきます。

馬の世界も人間の世界も性愛の原理は似ています。メスのほうが、「まぐあい」の決定権をもっているわけです。メスから拒絶されてしまったオスの多くが、生涯インポになるように、人間の世界も、女性から拒絶されたがゆえに、インポになった男性が多いのも事実です。女性に睡眠薬を飲ませて乗つかるといふTVに出ている有名な占い師もいましたが、拒絶されることを恐れる弱虫な男ということなのです。

■女性が愛の主体になるべき

女性ならではの特権はなんでしょうか？ この特権を活用しないまま女性として生きるのももったいないことです。男性を愛する、男性を愛したいという衝動が大きいのが女性の特権です。だから、いい男だと思ったら、どんな男性を誘うべきなのです。男性から誘われるのを待っているのが女性らしいなんて思っていると、もう地獄への入り口です。いい女性は、男性を堂々と誘うものです。私はあなたを愛したいの。だから、つきあってと目をキラキラさせて言うものです。そんな女性は男性を束縛しませんし、男性を大きく育てる愛情をもっています。いい女性が最近、少なくなってきたように思います。

悪い女性というのは、男性に依存して、男性を束縛していく女性です。依

存するために、化粧をして着飾って、色気を振りまく女性は、必ず男性を束縛します。こんなずる賢くて悪い女性が、最近は多くなってきました。

いい男性も少なくなってきました。筆者は百人の女性と肉体関係をもっていると言っている、経営者や医者と会ったことがあります。さぞかし、女性について深い理解をしているのだろうと思って、話しを聞きにいったことがあるのですが、なにも理解していない男性ばかりでがっかりした経験があります。多くの女性の肉体の形を見たり、触ったりして、姿形の知識は豊富にあるのかもしれませんが、女性から何を学んだのかを聞いても、なにも学んでいないのです

そういう男性に近寄ってくる女性も、男性を育成したい、男性を愛したいという女性の特権を活用していません。男性のもっている、お金、名声、社会的地位に惹かれて寄ってきて、なにかいいことがありそうだという幻想を

抱くような無知でクレイジーな女性を抱いても精神は満足しないのです。だから、そんな女性を抱けば抱くほど、男性の品位も確実に落ちてきます。下半身の肉体の緊張をほぐすだけの、まぐあいを、何万回繰り返しても、男性の成長はないのです。

■性の違いを学ぶ

人間を作り、宇宙を作った存在は、男であり女でもあり、女であり男でもある中性の存在です。だから、人間も中性を目指すようになっていっています。血液を流れるホルモンも、男性は男性ホルモンだけではなく、女性ホルモンも同時に存在しているのです。女性も、女性ホルモンだけではなく、男性ホ

ルモンも同時に存在しているのです。

魂は中性を目指しているわけです。 男性が女性の肉体に入りたいという欲求も、その根源は中性を目指したいという欲求があるからなのです。女性が男性を愛したい欲求があるのも、その根源は男性を育成することによって中性を目指したいという欲求があるからなのです。だから、ただ挿入して射精しておしまいという「まぐあい」では男性は、やればやるほど、不満足が大きくなってくるわけです。ソープランドに通う男性は、きまって寂しさが、どんどん高まってきます。満足するのはソープに行ったその日だけでしよう。翌日から、以前にも増して強い孤独感が襲ってくるのです。

女性をレイプする男性も、きまって寂しさが、どんどん高まってきます。行き着く先は、孤独という地獄界です。男性からみても、それは分かります。女性を深く理解している男性は、美しい感じがします。女性を深く理解しな

い男性は、醜い感じがするのです。女性を深く理解しない男性は、男性からみても、魅力がありません。

深く理解するためにはどうすればいいのでしょうか？ 欲求を隠さないことです。隠すともう地獄への入り口です。そして、気にいらないことがあれば、どんどんケンカすることです。駆け引きをしないことです。駆け引きがはじまると、それはもう政治家と同じ権力闘争の世界となり、愛はありません。男性がやってはいけない、一番醜い駆け引きは、女性の肉体に固執するために、お金や女性の気にいるものを買ってあげることです。女性がやってはいけない、一番醜い駆け引きは、男性のお金や社会的地位に固執するために、自分の肉体を武器に使うことです。

■フィリピン人女性との結婚斡旋で学んだこと

フィリピン人との国際結婚斡旋ビジネスを以前はやっていましたが、日本人男性が犯す過ちの最多はお金で気に入られようとする事です。自分の収入、年金のこと、経済的保証などを何度も説明するのです。金で女性を説得するわけです。こうなると、相手も金を要求してきます。その結果、フィリピン人の妻は、金をもってフィリピンに何度も里帰りして、それを日本人男性は非難するのです。フィリピン人の妻をもつと金ばかりかかると言っています。自分で、その根源をつくっておいてなにを言っているのかと思うことが多くありました。お見合いの直前には、金の話は一切するな。金で女性の気を引くなど繰り返し強く指示するのですが、この指示を守る中高年男性はほとんど皆無でした。その結果、皆さん、結婚してからしばらくすると金のかかるフィ

リピン人妻だと文句を言っています。

さらに、金で女性を説得した男性の多くが、夜の生活に不満を持っていきます。「まぐあい」を女性が拒否するという不満です。男性の言い分は、金でお前を妻として買ったんだから、やらせろです。女性の言い分は、あんたを愛したくないから、やる気にならないというのが本音です。女性は愛したい生き物なんですね。収入の少ない日本人男性のほうが幸せになる確率が高いのです。金がないから、愛で口説きます。結婚してからも、愛が中心なのです。フィリピン人女性は、金には金で答えますが、愛には愛で答えてくれるのです。女性がパートで家計を支えるケースも多いのです。こういうカップルは見えても運が良くなってきました。良いことがたくさん起ってきています。

■夜の生活を拒否される男性が多い

結婚して数年経過した男性同士が集まって、ワイ談になると、妻が夜の生活を拒否するという不満がとでも多いものです。そういう男性は必ず男性からみても魅力がありません。自分の会社の悪口ばかり言っているし、収入の少ないことを社会のせいに行っているし、政治が悪いとか、上司が悪いとか、うまくいかない原因を自分以外の誰かだと言っているのです。心配ごととはたとえば年金のこと、自分の将来のこと、住宅ローンのことです。こんな男を愛したいと思う女性は、いないでしょう。だから、女性から拒否されて当然なのです。

今から60年前は、男は国のために命をかけて戦ったのです。だから、そんな男をヤマトナデシコは立てて愛したのです。女性が愛したい男性は、そういう男性なのです。うまくいかない原因を自分以外の誰かだと言って文句

ばかり言っている男性を愛したいとは思わないでしょう。

女性は愛に命をかけます。だったら、男性はせめて、仕事くらいには命をかけてもいいのではないのでしょうか。会社が悪い？ だったら、独立したら？ 上司が悪い？ だったら、自分がその上司から権限を奪ったら？ 社会が悪い？ だったら、自分の周囲の社会から自分で良くしたら？ 政治家が悪い？ 政治家になる能力もないくせに、文句があるなら、自分で政治家やってみたら？ 金がもつと欲しい？ だったら、工夫したら？ これが、まともな女性の感性でしょう。

■愛したい欲求のない女性はもう死んでいます

愛したい欲求が消えかかっている女性も多くいます。住宅ローンもおわり、年金生活に入っている人に多いパターンです。貯金もある程度あり、衣食住

には不自由がない女性に多いパターンです。このまま、朝は近所を散歩して、昼寝して、ときどき趣味をやって・・・こんな元氣のない女性はもう愛したい欲求が消えているのです。愛したい欲求が消えると、病氣がちになってきます。つまり、魂が苦しがっているので、肉体が死ぬのを待っているだけの生活になってきます。

いっぽうで50才を超えて元氣に若々しくなっていく女性も多いのです。その多くは、くたびれた夫に見切りをつけて、他に愛したい男性を見つけた女性です。占いの講師として活躍する女性に多いのもこのパターンです。だれかを愛したいから占い講師として活躍するのです。出会う人、みんなを愛したいから、人気講師になれるのですね。女性がもっている、愛したい欲求に素直に従っていけば、ビジネスは成功するのです。

■まぐあいの手法

さて、「まぐあい」の手法ですが、ここがもともと皆さんが誤解しているところでは。アダルトビデオや成人映画や西洋の恋愛映画や女性週刊誌などで洗脳されたらもうダメです。愛と「まぐあい」どっちが先かといえば、「まぐあい」が先です。愛は、時間をかけて育てていくもので内容はどんどん変容していきます。しかし、「まぐあい」はそうでなく、愛のスタートです。

「まぐあい」は、**エネルギーの交換**です。男性のプラス電気エネルギーと女性のマイナス電気エネルギーが中和して男性が女性からエネルギーをもらい、やさしく女性的になれ、女性が男性からエネルギーをもらい、決断できる男性的になれるのが「まぐあい」なのです。それには時間がかかります。最低、

3時間くらいは肉体の結合状態を維持しなければなりません。筆者の場合、中和ができていないと感じる場合は、数時間は結合を維持するようにしています。慣れてくると、自分の中の女性の部分が啓発されてきて、陰と陽が中和していく感覚がわかってくるものです。

だからと言って、肉体の射精したい欲求を我慢しろということではないのです。女性から聞く「まぐあい」の不満の最多は、ゆっくりして欲しいのに、動きが早すぎて運動会みたいだということです。だから、男性は射精を最終目的にはいけません。射精してしまっても、問題ありません。ペニスが小さくなくても問題ありません。ペニスの大きさなんて、女性の満足度とは無関係なのです。ペニスの先が、女性の「あわび」にくっついていてくれるだけでいいのです。射精は、肉体的な緊張感をやわらげるといのが本質的なものです。だから、早く射精する男性は、女性にたいして緊張しているのです。

なぜ緊張しているか？といえは、隠していることが沢山あるからです。ハッキリ言えば、欲求を隠していたり、ウソを女性に言っていると、早漏になるのです。

早く射精してしまつたら、そこからスタートするくらいの気持ちでいいのです。大きさは無関係ですから。堅さも無関係です。大きくて堅いものを挿入されると痛いというのが女性の本音です。やわらかくて小さいほうが、女性の肉体にとつてもやさしいのです。

男性は女性に満足して欲しいのなら、頑張らないことです。むしろ、女性が上がって、好きに動いてもらうほうがいいのです。男性上位は正上位と言いますが、これは東南アジアに行くと、宣教師の体位といってレイプの体位を意味するのです。決して、正上位は正常ではないのが現実なのです。

男性のほうが、女性にされるがままのほうがいいのです。まぐあいの時間に、

自由を女性に与えるのです。男性は、すべてのやりたい行為を女性にお伺いをたてて、許可をもらってからやるというくらいでいいのです。手の動き一つ一つも、女性に許可を得てから、やるのです。ここを、触りたいかどうか？ ここをなめたいかどうか？ と聞くのです。そうやって会話をしていると、女性の性を深く知ることになります。女性も積極的に男性にたいし、女のシステムを教育すべきです。

- ・手の動きが急激すぎる、もつとやさしくやりなさい。
- ・腰はもつとゆっくり30秒に1回くらいのわりあいで動かしなさい。
- ・射精してすぐにシャワーを使うのはダメ。私まだ満足してないのよ、ちゃんとあなたのをくつつけておいて。
- ・男性が大きさを自慢するなら、大きさは関係ないの、大きいと痛いだけで

しよ。お馬鹿さんね。

- ・そのまま動かないでじっとしていてね。それが至福なんだから。
- ・まだ出しちゃだめよ、エネルギーがどんどん自分に入ってきているから。
- ・男性がもう我慢できなくなつたと感じたら、じゃあいいわよ、出しなさい。

こんな会話をして、女性のシステムを教えるべきなのです。

結合した状態のまま

- ・ところで明日の日曜日の夜、どこに食べに行く？
- ・最近、会社で問題があつたの？
- ・今日、TVでこんなニュースがあつたけれど・・・
- ・今日のおかずは、おいしかった？

という会話をするくらいでいいのです。

女性が男性にする会話の根源は、男性をもっと成長させたいという欲求であることが重要です。自分のオトコは、こんなもので終わるはずがないという、気持ちでいることが重要です。男性は、昔から、女性によつて成長させられる生き物なのですから。男性は、一生懸命やるとダメなのです。リラックスこそが、「まぐあい」の手法なのですから。女性の肉体を見て、視覚的に興奮するようでは、まだまだリラックスはできません。エネルギーの交換こそが、まぐあいだと、自覚すべきです。

最後に、お勧めの体位です。お互いに仰向けになって 90度の角度で、股で交差するようにします。女性の片方の足をあげてもらって、男性のお腹あ

たりにおきます。そして男性は、斜めから腰をいれます。結合したまま眠ることもできますから数時間の「まぐあい」は可能になります。

■レイプをする男性の心理

薬を使って女性を乱暴したり、レイプしたりする男性には二種類があります。一つ目は、野獣そのものに近い魂しか持ち合わせておらず人間の形をしているが、魂は動物から進化したばかりの人です。野獣ですから、こういう人に効果的な説教はありません。野獣は常に、スキを狙いますから、暗い場所、繁華街、お酒の席、など野獣が目をつけやすい場所に行かないことが最大の予防策です。野獣を刺激するような、短いスカート、薄い洋服、体のラインが明確な洋服こんなものも避けるべきでしょう。イスラム圏の女性のような洋

服を着ていれば、野獣もその気にならないものです。しかし、野獣のような男性は、雰囲気で分かるものですから、ピンと来たらどンドン逃げることです。日本で、こういう男性と出会う機会は多くはありません。

二つ目は、母親に恨みがある男性です。この場合は、女性が男性を育む大きな愛をもって信じてあげられませんが女性には常に自分を傷つける存在だと深層心理では思っていますから、レイプができるのです。たとえ泣き叫んで抵抗したとしても、冷酷になれるわけです。だから、もし筆者が女性だったら、男性と出会う機会があったら、必ず最初に母親とはどういう関係かをヒアリングします。この関係がおかしいようであれば、危険な男だと判断するわけです。実際母親に恨みをもっている男性は多いです。もしかしたら、半数近くは、そうかもしれませぬ。もし、乱暴されかけたらこんなことをして生涯

あなたを恨み続ける自分にはなりたくはないから、やめてくださいと言うこととです。乱暴する前に、そういうことを匂わせる男性はいません。だから突然、乱暴されたと女性は思うわけですが、実際は心の中では、何度も男性は乱暴しているわけです。それを察知できる女性であるべきです。心で隠していると、緊張感があるはずですから、それを感じるわけです。

このほかに、レイプまではいかないかもしれませんが、宗教や厳格な親から教育されて育った場合も、抑圧された性的欲求をもっています。親が警察官や学校の先生だった場合は、「まぐあい」そのものを罪悪視されて育っているのです、自分の性欲を感じることに、罪悪感を積み重ねるようになります。風俗に通う男性の多くは、このケースです。こういう男性の場合は、一回り年上の女性から、性のレッスンをうけたほうがいいのです。男の性を知り尽

くした女性から、すべての欲求を受け入れてもらうことで、罪悪感が消えていくのです。

■西洋人の性は身勝手なキリスト教原理が背景にある

それから、日本人男性には少ないと思うのですが、女性をたんなる性欲のはけ口としてしか認識できない男性が西洋人には多いのです。だから男女平等とかウーマンリブなんていう思想は西洋から起こってくるわけです。西洋のアダルトむけのHPをみると、東南アジアにプッシー（女性のあわびです）を買いに行こうというツアーを案内している業者が多数あります。実際、フィリピンのビーチに行くと西洋人が3人以上の現地女性をつれてくる光景をよ

くみます。

しかし、日本人男性のように女性と楽しむという感じはまったくありません。性の奴隷として1週間いくらかで買うわけです。なんで3人なのかを現地の人に聞いてみたら、西洋人の場合、女性が殺害される可能性があり命の危険があるので3人セットで性を売ったほうが安全なんだそうです。夜の生活の様子を聞いてみると、日本人男性はたとえ買った女性であったとしても朝まで一緒に寝て欲しいという男性がほとんどなのですが、西洋人は行為が終わったら女性は別室の床で寝かせるそうです。外に出されて砂浜で一夜を明かす女性もいます。ベッドはあくまでも自分が寝るために奴隷が寝る場所ではないという発想です。

実は元ヤクザの親分もフィリピンにお見合いに行ったことがあり筆者が同

行しました。そのとき、欧米にメイドとして働きに行ったフィリピン女性の多くは、性の奴隷として扱われ、気にいらなくなると庭に埋めてしまうということを聞いたことがあります。

こういう残酷な話しは東南アジアではふつうに良く聞きます。もっとも残酷なのは、大金持ち相手の性の商売です。大金持ちは、普通の性では満足できなくなってしまうのです。女性の手足をのこぎりで切断すると、体中の筋肉が収縮するそうです。子宮も収縮するので、それが極楽なんだそうです。だから、そういう極楽を提供するビジネスもあるそうです。自分の国に帰れば、みな社会的地位があり、大金持ちで、周囲から尊敬される人物です。彼らは、自分の国では欲求を隠して生活しなければなりません。立派なふりをしなければなりません。だから、立派でない行為はそれができる外国に行つてやるわけです。

こういう大金持ちは、ほとんどがキリスト教国家の人で、キリスト教の言う罪感を子供のときから学んでいます。だから、子供には性欲を抑えろとか、罪であるという教育をされてきたわけです。子供のときから、ずっと性の欲望が抑圧され、隠され、時限爆弾のようにかかえこんだまま成長したわけです。白人のなかには、有色人種は神から祝福されない人種（人間ではない）であると思っている人がいます。神とは無関係の有色人種は、人間ではないので、なにをしてもいいという発想になるわけです。

戦争中、欧米の兵士達は日本人兵士の死骸をみると棒で口をあけて金歯を採集し国にもちかえって換金した話しは有名です。また、欧米人の仕官達は神とは無関係の日本人捕虜を生かすために食料や施設を与えるのはもったいないと考え、捕虜を飛行機で移動中に、飛行機から落としてコスト削減したのです。

こういう発想の欧米人が戦争で、戦場になった現地の女性達になにをしたかは想像がつくでしょう。今も、京都や奈良といった舞鶴港がある地域の周辺で、あきらかに日本人ばなれした骨格のスラリとした身長175cm以上の長身の日本人女性が多い理由を知っているでしょうか？戦争中、朝鮮半島の北のほうに住んでいた日本人が命からがら歩いて南のほうに移動し釜山港から日本に帰ってきたのですが、その行軍の途中でロシア兵にレイプされた女性達の子孫だからです。こういう史実をテレビで放映しないでテレビで流されるのは従軍慰安婦の問題ばかりです。背後に欧米崇拜の権力者がいるのです。う。または日本人はこんなに残酷な民族なんだと自虐的にさせる意図があつてやっているのでしょうか。日本人は感情的に煽動されやすいので欧米人からみれば洗脳しやすい阿呆にみえるかもしれません。

現在のキリスト教の組織が教える宗教はイエスの教えとはまったく無関係の恐ろしいものです。自分達だけが選ばれた人間で、他の民族は滅亡してもいいという身勝手な発想を引きおこしてしまいます。小さい頃から性の欲求を抑圧されると、かならず異常な形で爆発します。読者も、自分が幼い頃、どんなふう性に教えられたか？思いだしてみてください。自分の性のトラブルの根源がなんなのか？気がつくだけで問題はもう自動的に解決するのです。

■ いい男 いい女

いい男とは、自分の使命感をもって（それが間違っているとしてもすぐに悟るから問題はない）使命の遂行に命をかけている求道者です。すべてのことを自分の責任として理解し、心に恨みがないからです。またあえて困難な道

を求めていく男性は、頭がどんどん良くなります。インスピレーションが降りてくるようになります。こんな男性の子供なら生んでみたいと思うのが、女性の本能でしょう。うまくやる手法は、完全投入だけであると理解している男性なら、どんどん発展していきます。

最近、学歴が高くて物知りですmartな男性は沢山いるのですが、腹の据わった勇氣のある男性は少なくなってきました。いい女とは、許しの愛にあふれていて、犯罪を犯した人、世の中の悪と言われることをやった人でも、あらあらどうしてそんなことをやってしまったのか？その辛い心情を私に話してみなさい。という許しの度量が大きい愛の人です。男性に何かを求めるのではなく、ただ愛したいから愛するという女性なら、こんな人に自分の子供を生んで欲しいと思うのが、男性の本能でしょう。

また綺麗で頭のいい女性は沢山いるのですが、愛にあふれた女性は少なく

なつてきています。男は度胸、女は愛嬌つて昔から言うでしょう。勇気を女性性は、男性から学び、愛を男性は女性から学んだものです。でも、勘違いしないで欲しいのは、あなたが男性の場合、じゃあ愛嬌のある女性を探そうと思わないことです。あなたが女性の場合、勇気のある男性を探そうと思わないことです。出会いは結局、自分の現在の波動にあった異性としか出会えないようになっていくからです。異性と出合ってしまったら、それが今の自分にはふさわしいレベルなのです。いい彼氏が欲しい？その前に、あなたがいい女性、やさしくて愛情の深い女性になるべきです。いい彼女が欲しい？その前に、あなたがいい男性、勇気ある行動ができる男性になるべきです。

出会う異性は、今のあなたの波動にマッチした異性だけというのが現実です。自分に都合のいい出会いなんてありません。だって、それは相手にとつて都合が悪いということなのですから。

■江戸時代の性文化

江戸時代の文学を読んでみると、「私はもうトロトロになっていくから、早く入っておいで」という女性の「まぐあい」の言葉が記載されています。そして、「お前さんのおかげで極楽に行けそうだ」と男性の言葉が記載されています。朝から夕方まで畑や田んぼの農作業をして、夜になると好きあった男女が極楽を求めて逢引する。結婚していたとしても、夫は夫で好きになった女性のところにいき、妻は妻で好きになった男性のところにいき、お互いを束縛しない。若い男性の野獣のような性欲は、年増の女性が女を教えてあげるといふ気持ちでおおらかに指導したものです。

「女はね、いつもトロトロにはなれないんだから、急ぐんじゃないよ」

「ゆっくりしないと痛いじゃないのこの未熟者」

「自分だけ満足したから終りじゃ身勝手というもんだよ」

「お前さんが終わっても、女がいいというまでもうちよつとくつつけときな」

「女にどうしてほしいか聞くんだよ」

「栗とリスを刺激すれば感じるなんて思っているのかい、そんなものじゃないんだよ」

「子宮全体で男を受け入れたいというのが女なんだからね」

こんな会話で若い男性に女のシステムを教えていたのです。

祭りのときには、女性が男性を誘い、男性が女性を誘い、あちこちの草むらでは、歓喜の音がそこら中に響いていてそのときに出来た子供は村中で、神

さまからの贈り物だということで大切に育てたのです。こんなおおらかな性文化が江戸時代にはあったのです。

そういうおおらかな時代にはレイプなどはほとんどありませんでした。性欲を隠し、結婚したら相手を束縛するという近代の制度を西洋から導入し、親子に「まぐあい」の仕方を教えなくなり、道徳を学校で教え、学校で性教育（実質は性交教育）をするようになり、性犯罪を厳しく取り締まる法律ができた現代は、毎年性犯罪が増え続けています。

筆者は江戸時代にあつたおおらかさこそが、日本の伝統だと確信しています。知と情と意が人に必要な3つの能力ですが、最近の知的教育の結果、知だけが発達して、情がない人が増えていきます。情がないから、意がなく、行動ができないのです。知だけの人がやることは決まっています。問題の先送りです。発する言葉は、「想定外だった」です。つまり、無責任な人が知の人

です。原発事故で無能力があきらかになった東京電力の幹部はみな東大卒です。責任のがれの言葉しか出てこなかったでしょう。

知だけの男性の「まぐあい」はつまらないです。女性からなにかを学ぼうという気持ちもなく、ぶつかりあったり、ケンカして男性と女性の違いを学習する気持ちもなく、理屈で自分を正当化ばかりしている「まぐあい」です。「まぐあい」だけでなく一緒に酒を飲むのもつまらないものです。だからけっこう孤独な男性が「知的に優れている」といわれる人に多いわけです。まあハッキリいって愛されていないわけです。

もつと情と意を發揮すれば、人生も楽しくなつてきます。

スピリチュアル的に言えば、感覚的には男性は子宮が移植されるような感じを味わって受け入れる側の喜びを実感できたとき、女性はペニスが移植されるような感じを味わって挿入する喜びを実感できたとき、そこまで、溶け

合うことで、魂の中性化（神の御霊に似る）が達成され、それが極楽の境地となるわけです。溶け合う能力は、「知」では達成できません。現代の日本人が失おうとしている「情」と「意」が必要なのです。

■愛人ができるプロセスには共通点がある

家庭環境で父親から愛されなかった女性は、真の父を探しています。男性が、普通の男性よりも、パワーがあり、決断力もあり、お金もあつた場合、女性から見れば、頼りがいのある男性と映ってしまいやすいのです。家庭に恵まれなかった女性というのは、だいたいが頑張り屋さんです。懸命になって、社長や上司の期待にこたえようと頑張ります。しかし、精神的には、未熟ですから、どうしても、躁と鬱の状態の変化が激しいことが多いのです。

それで、男性が心配して、女性の悩みをヒアリングするわけです。私が知っているだけでも、そういった女性達の根本問題は非常に根が深いものです。具体的には、父親が酒乱で、幼い頃から虐待を受けている、父親や兄から性的虐待を受けている、母親が愛人を作って出て行ってしまった。そういうケースが非常に多いのです。男性が心配してヒアリングをするのは、良いのですが、そういった女性の心の根の部分を知ってしまうことがあります。女性にしてみれば、誰にも話せなかった内容を信頼できると思つて、全てを告白したわけです。そして、「私を、この地獄から救ってください」という心の悲鳴を聞くわけです。責任感のある社長は、そういったことを聞くと、なんとかしてやろうと決意します。その決意を見て、女性は、社長に対し、こんな私を救ってくれる世界でただ一人の理想の男性と思つてしまうわけです。

男性も、女性を苦しみから解放してやろうとして、懸命に頑張ります。頑張れば、頑張るほど、男女の仲にならないと、苦しみを救ってやれないことがわかります。そこから男性は悩みます。男女の仲になった女性の家族から、訴えられるかもしれません。自分の家庭が崩壊するかもしれません。ですから、通常は、能力があつて、育成すれば自分の片腕になるだろうと予想される女性であっても、その女性のトラウマを解放してあげることをお勧めしていません。しかし、まれにですが、自分の将来性を犠牲にしてまでも、一人の女性のトラウマを解放させることに對し、命をかける男性もいます。

男女の関係になつてからが本当の始まりです。肉体関係を持つて半年間は、女性は天国にいます。愛さえあれば何も望まない。今まで嫌いだった両親や友人も全てが許せるという心情になります。今までの課題が全て乗り越えられるという気持ちになります。しかし、そういう心情になるのは、せいぜい

半年間くらいです。

その後、男性がセックスだけで帰ってしまうと、強烈な嫉妬心が沸いてきて、男性の家庭がうらやましくなります。その嫉妬心というのは強烈なもので、仕事など手につきません。仕事の効率は確実に落ちてきます。愛の形がどんどんゆがみはじめ、独占欲が強くなります。独占できれば、天国に行けると思います。そして、独占できないなら、関係を清算しようとなります。しかし、精算するだけの勇氣などありません。そんな勇氣があるなら、とつくにトラウマから自力で脱出しています。肉体関係を持って最初の半年が過ぎてから2年間は、こういう下降曲線を描きながら、心情は激しく上下します。そして、ずるずると関係だけは続いていきます。

この期間に男性がすることは1つだけです。仕事に邁進し、自分の使命を第一に遂行することです。家族や女性に左右されるようではいけません。自分の

天命ともいうべき内容があるなら、それを遂行すべきです。心情がぶれてはいけません。どんなに女性が激しく泣いても、激情しても、そんな場面に遭遇したとしても、頭の中は仕事のことを考えている。このくらいで良いのです。まともにつきあつてはいけません。3年目が経過するころから、女性はだんだんと決意を固めてきます。完全に関係を清算するか、それとも、愛人のままで生涯を生き抜くことを決意するかです。この判断は、女性自身がすべきです。男性が関与してはいけません。アドバイスしてもいけません。

もし、女性に関係を清算したいと決意したのであれば、まとまったお金を持たせて即刻その女性を追い出してください。もし、愛人のまま、生涯をいくと決意したのであれば、新しい目標を設定してあげてください。経営者自身の天命を成し遂げるためのパートナーとして育成してあげてください。もし、男性に子供がいなければ、子供を産んでもらっても良いかもしれませぬ。

4年目になる頃から、ようやく2人の関係は、明確になってきます。一方的に愛を与える関係ではなく、お互いに補いあえる関係になるはずです。4年目になって、2人の関係が明確になるまでは、男性も悩まされることを覚悟してください。男のロジックや論理などは、まったく通用しない世界ですから、覚悟しなければなりません。

少し注意点があります。女性が40才を超えていれば、女性が悩む期間は、もっと短くなる可能性があります。女性が30才以下だと、悩む期間はもっと、長くなるかもしれません。そして、女性に対する責任感は、絶対的なレベルで持っていてください。中途半端なら、最初から責任を持つとうなんて思わないでください。

どこかの偉いお坊さんや宗教家や霊媒師に頼るといふ気持ちも持たないでください。宗教の世界では、トラウマからの脱出を、因縁切り、霊界解放、先

祖解放、カルマからの解放といった儀式でできるように言っています。そんなに簡単なものではありません。霊の力を使ってやった場合は、すぐに元に戻ってしまいます。効果は一時的です。実際、私は、ある宗教法人で、そういった因縁解放の儀式を経験したことがあります。それは、棒でもって、背中を思い切り叩くという古代から普通に行われている手法を使うものでした。何時間にもわたって、思い切り叩くのです。その痛みが体の細胞の中に、入り込んでいる邪霊を追い出す刺激となるのです。確かにそういった手法でも、悪い霊は出て行くようです。しかし、根本的な気持ちの部分で変わっていないと、また同じような悪い霊が入り込んでしまいます。外からいくら刺激を与えても、根本的な解決にはならないのです。人に頼るくらいなら、最初から責任を持つようなってという気持ちは捨てることです。

■四柱推命でみる十干別対応の仕方

さて、女性の性格によつて対応を細かく変えていかなければなりません。それで、もし愛人にしたいと思う女性が現れたら、注意すべき点を、十干別に解説しましょう。

日柱天干が甲の女性は、プライドが高く割り切った考えをします。男性から見て、かばってあげたくなるようなタイプではありません。同じ戦いをしてくれる同志としてパートナーを組むなら良いのですが、囲ってしまふような女性ではありません。もし、弱く見えたとしても、それは、単なる男性の目を惹きつけるジエスチャーです。

四柱推命 命式作成無料HP

Web

日柱天干が乙の女性は、「私、こう見えてもすごいんです」と言わんばかりに、頭の中では大胆な夢を描いています。しかし男性から見ると、奥さんにして家においておきたいタイプです。少女マンガの主人公のような内面と、冒険好きな心を合わせ持っています。冒険は長続きしません。男性の守備範囲の中で行動するように決めてあげたほうが、女性は安心します。何でも良いから自由にしても良いという指示ではかえって、不安を与えてしまいます。

日柱天干が丙の女性は、天真爛漫で喜怒哀楽が顔に書いてあるタイプです。男性から見れば、はじけるようなしぐさが、かわいらしく見え、一緒に居ると楽しくて時間を忘れてしまうかもしれません。しかし、かわいいと思えるのは初めだけで、時間が経つにつれ、振り回されっぱなしで疲れてしまい、す

ねた姿は、単なる我がままだと感じることもあるようです。おとなしく、男性の言うことを聞くように見えるなら、それは、単なる演技です。

日柱天干が丁の女性は、気取らず庶民的な感覚を持っています。男性から見ると、品の良いお嬢さん育ちのイメージです。人との競争を好まず、友達づきあいや、生活範囲など、自分に似合ったものを知っていますので、男性が愛人にしたくても、好んでなるようなタイプではありません。情熱的に男性と接しますが、相手が妻帯者となると、情熱の炎はくすぶり始めます。

日柱天干が戊の女性は、ニコニコしていても、どこか芯の固さが見え隠れするところがあります。男性から見れば、気軽に食事に誘えるような雰囲気は持っていません。しなやかさに欠けますし、本人も女性の色気を売りにして、

男性に媚を売るようなことはしません。義侠心に厚く口が堅いので、内密な仕事や裏社会に力を貸してくれることがあります。ヤクザの女房役ができるタイプです。

日柱天干が己の女性は、みんなで仲良く一つのことに取り組みたいと考えるタイプです。無理して一人で多くの仕事を抱えたりせず、出来なければ素直に相談しに来る姿に、男性は「よしよし」と甘えさせてあげたくくなります。甘ったるい関係を好み、やきもち焼きなので、困った場合は情緒を安定させなだめすかす時間が、しばしば必要でしょう。結局、面倒臭いと思うようになることが多いので、甘えを好ましいものとして、とらえるのは厳禁です。

日柱天干が庚の女性は、美人が多く色気もあり、仕事もきっちりこなしま

す。男性から見れば、食指が動くタイプですが、内心では自分が一番だと思っています。初対面では見抜けませんが、徐々に鼻についてくるような言動が現れます。小悪魔的な要素を持っていますので、かごの中に、なかなか納まらないペットを囲うような感覚だと楽しめるでしょう。お金の出費は確実に、多い女性ですので、お金を使いたくない男性は、手を出さないことです。

日柱天干が辛の女性は、必ず何か一人で出来る趣味を持っています。美的感覚に優れており、その趣味は高尚です。男性から見ると、一途に何かに取り組んでいる姿がけなげに見え、そっと守ってあげたいと思うタイプです。しかし、一途な想いが男性に向けられると、かなり重荷になつてきます。正妻の座以外では、本心ではまったく満足していません。家族の次におまえが大事だという程度では、ずたずたに傷ついてしまいうくらい一途です。

日柱天干が壬の女性は、知的な女性です。男性から見ると、圧倒されるような知恵や知識を出してきて、挑戦的に感じることもあるでしょうが、味方につけたら心強い女性です。セックス好きの女性が多いようですので、淡泊な男性では物足りなく感じるでしょう。極めて理論的・実利的に物事を考えるので、男性に魅力がなくなると、あっさり別れ話になったりします。男性を食って成長する女性です。困ったつもりが、やがては、食われていることがあります。

日柱天干が癸の女性は、一見特徴をつかみにくく、見事に媚を売ってくるタイプと、さっぱりしたタイプの二つに分かれますが、厳格に物事を捉えています。男性から見ると、世話焼きで、同僚や後輩に慕われる女性に見え、声をかけたくくなりますが、たいてい彼氏がいます。結婚願望がありますので、

ほのかな色気に惑わされて手を出すと、離婚の危機が訪れるかもしれません。正妻の座を手に入れるために、知恵を使ってくるかもしれません。

■女性への警告

愛人になるといふのは、嫉妬心や恨みなどの心が今よりも強く大きくなるということをお肝に銘じてください。そして、それをコントロールする強い意志が必要です。この気持ちのコントロールができるということは、平凡な主婦やサラリーマンをしている女性のレベルをはるかに超えた精神面の実力が必要です。起業家と同じくらいの精神的な強さが要求されます。そして、「ダーリンの家庭は、絶対に壊さない」、というプライドを持つてください。他人の

家庭を壊して、自分が幸福になれると思っ
ているなら、そんな自分勝手な思
いは男性に伝わります。伝わった瞬間に、男性は、そんなレベルの女性とつきあ
つてもメリットなしと判断します。男性は、子孫の発展のために責任を背負
つて生きているのです。その責任の大きさを、理解しない身勝手な女性などは
必要ないのです。

実際に、経営者の愛人をやっている女性からの相談も多いのですが、最近
は精神的に我がままな女性が多く、いつまでも社長としては関係を続けたく
ないだろうと思われるような女性ばかりです。そういった女性の悩みは、愛
人でなくなるとお金がなくなるから困るというお金の相談です。昔の愛人とい
うイメージはもう存在しません。売春婦と同じような感覚です。若い肉体に
しか価値がないのにそれに気がつかないようです。こういった内容について

いけないと思うなら、とつとつと、普通の男と結婚したほうが良いのです。愛人になればお金に不自由しなくなり、贅沢ができ幸せになれる？そんなに甘くはありません。今以上に、精神の修行をしないと、続けていくことはできません。

■あとがき

多くの人はコンプレックスを抱えたまま生きていますが、その根源は自分が製造したものではありません。親が自分を理解してくれなかったという承認欲求が満たされなかったという思いが根源であることが多いのです。実は、この承認欲求をそのまま異性に求めてしまつて、相手が承認してくれたという勘違いをして恋愛結婚するケースが多いのです。結婚詐欺師は、この心理

をついてきます。

恋愛の初期は相手の欠点など冷静に見ませんから、相手は自分の全てを受け入れてくれたと勘違いするわけです。でも、結婚して数年するとこんなはずじゃなかったということが次から次へと起こるわけです。若いカップルは、それで離婚するケースがほとんどです。しかし、自分は誰かから承認されているという自信があれば超えていけるのです。

自分は自分のことを承認している、という思いを持つことが結婚生活を破綻させない最も重要なことです。結婚生活も長くなると、簡単には夫婦関係は破綻しないだろうという油断が生まれてきます。夫は夫の役目を果たさない場合（お金を家にいれない、仕事をしない）でも、夫はどうせ妻は離婚する勇気などないだろうとたかをくくっています。妻を馬鹿にしているのです。

妻は妻の役目を果たさない場合（家事をやらない）でも、妻はどうせ夫は

一人になって孤独になることを恐れるので離婚など考えないだろうと思っ
ています。油断しているのは、だいたいが役目を果たしていない方です。だから、
離婚を切り出すとまさかこんなことになるとは夢にも思っていないかったと慌
てるのです。お互いの役目をしっかりと果たして感謝していれば夫婦関係は
維持できます。

さらに仕事を退職する年齢になると今度は生活不安が夫婦を襲います。老
後はどうするんだ？と考え始めて、将来のビジョンが見えないと今ならまだ
間に合うと思っ
て離婚を決意するのです。こういう心情で離婚を切り出すの
は女性です。女性は再婚が可能です。男性は仕事がなくなると再婚はとて
も難しいです。これは筆者が経験済みです。

女性の場合は、やっと自分を馬鹿にしていた夫から自由になれて嬉しい嬉し
いという心情になる人が多いようですが男性は孤独になって万引きをしたり

して、だれかにかまって欲しいと思うようになります。中高年の男性は、妻に今日からでも感謝していると言ったほうがいいと思います。

晩年になると孤独との戦いです。なにもしなければどんどん人間関係はなくなっていくきます。中高年になると腹を割って話せる人は少なくなってきました。だからこそ、今のうちから人間関係はつくっておかないとなりません。若い人は、自分の仕事に精一杯でリタイヤした人の面倒などみる時間があります。もし、若い人とのつきあいを希望するなら、せめてお金だけは作っておきましょう。

筆者は長期投資で資産を作っています。リタイヤしても金融資産があれば、若い人を支援することができます。自分でなにか小さな事業をスタートさせて、若い人に給与を支払う形でもいいでしょう。筆者はこのやり方で晩年を過ごそうと思っています。若い人を採用して給与を支払いながら、人間関係を

作っていくわけです。だれかにすがりつくような生き方は情けないのでやりたくありません。若い人にあげるものは仕事です。若い人が精一杯仕事をやって生活できるくらいの給与を支払うことができれば素晴らしい晩年がもらえるのではないのでしょうか。

■著者

フォーチュンソフト 代表 天野雲海 **Web**

■経歴

サラリーマン時代に会社の人事に不満をもったことから占いの研究をはじめた。占い研究の成果をソフト化し独立して25年が経過。業務用、プロの占い師向けのソフトウェアと書籍を開発、販売している。北海道に5年前に移住して開運乗馬施設をオープンした。

■お勧め Windows 対応ソフト

- ・星平会海プロ版 (四柱推命と占星学が融合) **Web**
- ・新四柱推命プロ版 **Web**
- ・西洋インド七政占星学プロ版 **Web**
- ・家相・手相・姓名判断プロ版 奇門遁甲バンドルパック **Web**